国　　名	タイ	プロジェクト名	家族計画・母子保健
協力期間	1991. 6. 1～1996. 5. 31	国内協力機関	国立公衆衛生院
署名年月日		相手国実施機関	保健省保健局家族健康課

協力概要

要請の背景

タイ政府は各5カ年計画において家族計画事業を重点政策として取り上げ、効果を上げてきた。我が国は1974年から1989年の間、同国の中西部において家族計画分野のプロジェクト方式技術協力を実施した。しかし、その恩恵に浴しない地域はなお広く、地域による格差が著しい。

また、人口問題解決の前提となる母子保健の向上は、今後の大きな課題となっている。特に、タイ東北部は母子保健のレベルが低く、家族計画、母子保健の立ち遅れが見られ、出生率、乳幼児死亡率共に他の地域に比べて高い。

目的・内容

家族計画及び母子保健活動を促進強化することにより東北タイ地域住民の保健水準を向上させる。活動内容は以下のとおりである。

(1) 家族計画及び母子保健活動の増進、IEC活動強化
(2) 家族計画、母子保健分野の人材養成促進
(3) 上記分野の保健情報管理システム形成
(4) 上記分野の調査研究促進

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	事前調査	90. 10. 23～90. 11. 2	0	0	0		45,000	0
〃	実施協議	91. 1. 10～91. 1. 19						
91			0	4	2	車輌、保育器	40,000	2
92	計画打合	92. 4. 6～92. 4. 12	3	0	2		52,000	3
〃	巡回指導	93. 3						
93			1	2	5	ﾏｲｸﾛﾊﾞｽ、新生児人工呼吸器	55,000	4
94			1	1	6	ﾏｲｸﾛﾊﾞｽ、分娩台	50,000	4
95	終了時評価	96. 2	2	1	4	ﾎﾟｰﾀﾌﾞﾙX-Ray、保育器	43,000	3
96								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR								
	91-07								

国　　名	タイ	プロジェクト名	公衆衛生
協力期間	1991. 9. 1～1996. 8. 31	国内協力機関	厚生省
署名年月日	1991. 4. 10	相手国実施機関	保健省次官室健康政策課、農村保健課PHC室

協力概要

要請の背景

タイにおける公衆衛生分野の協力は、1976年から1984年まではチャンタブリ県において、1982年から1989年までの間は、バンコク郊外に無償資金協力により建設されたプライマリ・ヘルスケア訓練センターを拠点とし、プロジェクト方式技術協力を実施した。しかし、同国の保健医療環境は疾病構造の変化等により過渡期に入っており、新たな問題に直面している。これら問題点の解決のために、1989年4月から3次にわたり調査団等を派遣し、1991年4月にR/Dを締結し、同年9月から協力を実施することとなった。

目的・内容

東北タイにモデル地域を設定し、同地域内の現行の保健医療サービスの実態と問題点、及び疾病構造を把握し、望ましい保健医療システムを立案することにより第8次国家保健計画（1997～2002年）の策定に資するために以下の活動を行う。

(1) PHC活動の質の向上
(2) 地域保健サービスの強化
(3) FP/MCH活動、感染症対策等の連係プログラムの運営強化
(4) アクションリサーチの実施
(5) 上記分野の人材育成等

終了時評価

備　　考

協力実績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
89				7				
90				2				
91	実施協議	91. 4. 3～91. 4. 11	0	3	2	ﾊﾟｿｺﾝ一式、ﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ	30,000	2
92	計画打合	93. 1. 17～93. 1. 20	3	0	8	救急車、ｶﾗｰｸﾞﾗﾌｨｯｸｺﾝﾋﾟｭｰﾀ	33,000	3
93	巡回指導	93. 11. 24～93. 12. 1	1	2	6	車輌、歯科機器	26,000	3
94			2	2	5	車輌、遠心機、顕微鏡	27,000	3
95	評価	96. 3	3	1	6	ﾐﾆﾊﾞｽ、超音波洗浄機	20,000	4
96								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR	JR	JR					
		91-32	93-28	93-39					

国　　名	タイ	プロジェクト名	エイズ予防対策
協力期間	1993. 7. 1～1996. 6. 30	国内協力機関	厚生省国立予防衛生研究所他
署名年月日	1993. 3. 19	相手国実施機関	保健省感染症対策局
協力概要	タイではエイズ感染者の拡大が深刻な社会問題となっている。タイ政府は1991年6月、エイズ対策を実施する体制を構築し、予防対策の推進に取り組んでおり、同国保健省は我が国に対して、(1)エイズに関する試験分析研究体制の強化、(2) エイズ教育強化についてのプロジェクト方式技術協力を要請越した。 これを受けて我が国は、以下の協力活動をする。 (1) 試験分析研究強化 ① 医療従事者に対する指導・訓練 ② 母子感染を含むHIV感染の実験室診断（抗体検査、ウイルス分離と特性解析）に対するレファランス活動の向上 ③ エイズに関わる日和見感染の診断法の確率、改善 ④ 疫学的研究及び感染予測状況調査、その他HIV感染に関する研究への協力 (2) エイズ教育強化 ① エイズ教育のメディア方略策定のための状況分析 ② エイズ教育教材の開発 ③ エイズ教育実施の適切な方法の開発と応用		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
92	事前	92. 10. 29～92. 11. 8						
〃	実施協議	93. 3. 16～93. 3. 20						
93			0	2	6	車輌、PCRｼｽﾃﾑ	59,000	3
94	計画打合	95. 2. 15～95. 2. 23	2	4	9	ﾏｲｸﾛﾋﾟﾍﾟｯﾄ、自動連続希釈装置	50,000	3
95	終了時評価	96. 1	4	0	19	ﾍﾟﾌﾟﾁﾄﾞｼﾝﾋｻｲｻﾞｰ／車輌	50,000	5
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR						
	92-28	95-04	91-21						

（及び計画打合）

国　　名	タイ	プロジェクト名	食品衛生強化
協力期間	1994. 4. 1～1999. 3. 31	国内協力機関	厚生省食品保健課、国立公衆衛生院、国立衛生試験所
署名年月日	1994. 3. 28	相手国実施機関	保健省医科学局 食品医薬品局
協力概要	タイにおける食品産業は急速に拡大してきているが、中小の製造業者を中心に、食品製造過程の安全性の確保、品質管理に対する意識がうすく、また消費者の食品の安全性に対する意識もうすい。係る背景のもと、タイ政府は食品の安全性と品質の維持確保を通じタイ人の健康の維持増進を図るべく、我が国に対しプロジェクト方式技術協力を要請した。 タイ保健省食品医薬品局における食品衛生管理等の強化及び医科学局における分析技術の向上等試験検査体制の整備を通じ、タイ国内で生産流通する食品の安全性確保を図ることにより、消費者保護の一層の充実を目標とする。 (1) 食品分析手法開発及び人材養成により検査技術を向上させる。 (2) 食品医薬品局における人材養成及び教育課程・教材開発 (3) 中小規模食品産業従事者に対する食品の品質管理、安全性確保に関する知識・技術の移転		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	事前	93. 10. 24～93. 11. 2						
〃	長期	94. 1. 10～94. 1. 22						
〃	実施協議	94. 3. 21～94. 3. 29						
94			0	4	3	ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ／安全ｷｬﾋﾞﾈｯﾄ	55,000	2
95	巡回指導	95. 11. 26～95. 12. 2	4	1	7	高速液体ｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ／移動式衛生検査設備	52,000	4
96	計画打合	96. 11 (予定)						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	長期		
	JR	JR					JR		
	93-48	94-30					94-12		

国　　名	ヴィエトナム	プロジェクト名	サイゴン病院
協力期間	1966. 4～1975. 3	国内協力機関	順天堂大学医学部
署名年月日	1973. 6. 10	相手国実施機関	サイゴン病院
協力概要	サイゴン病院に対する協力は、1966年度より開始され、これまで外科医、麻酔医など医療専門家を派遣すると同時に、医療品及び医薬品等の医療機材を供与した。また、同病院は、サイゴン市内における救急外科病院として中心的役割を果たしているが、手術中にも時々停電するため、発電機等、必要な機材も併せて供与した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
66			※1	1		発電機、医薬品	6,577	
67			2	—		外科及び麻酔用機材	12,882	
68			2	—			4,488	
69			2	—			7,581	
70			2	—		X線ﾃﾚﾋﾞ装置	23,461	
71			2	1		X線防護用扉	4,986	
72	計画打合	73. 3. 25～73. 3. 31	3	2		空調機、医薬品	31,708	
73			3	2		医薬品	30,664	
74			3	1		医薬品	48,312	
75			3	—			1,179	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ヴィエトナム	プロジェクト名	チョーライ病院
協力期間	1966～1975. 3	国内協力機関	日本大学医学部
署名年月日	1967. 6. 10	相手国実施機関	チョーライ病院
協力概要	本プロジェクトに対する協力は、1967年6月「日本ヴィエトナム両国政府間の医療協力に関する交換公文」に基づき実施され、これまでチョーライ病院脳外科病棟の建築並びに同部門における診療活動及び医学研究に必要な機材、医薬品類の供与を実施するとともに、脳外科医、X線技師等の医療関係専門家を派遣し、多大な成果を上げ、1974年度をもって終了した。 なお、本プロジェクトは、我が国最大の医療協力プロジェクトの1つである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
66				3		X線装置、脳波計、心電計	26,945	
67	予備調査	67. 5. 15～67. 5. 24	2	4		脳神経外科及び外科機材	29,069	
68	実施協議	68. 12. 9～68. 12. 23	6	5		病棟用機材	11,300	
69			2	25		X線ﾃﾚﾋﾞ	67,520	
70			4	7		医薬品	34,757	
71			2	6		医薬品	7,532	
72	計画打合	73. 3. 25～73. 3. 31	3	6		吸引器、医薬品	29,389	
73			3	―		医薬品	22,837	
74						手術用顕微鏡	14,281	
75								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ヴィエトナム	プロジェクト名	新チョーライ病院
協力期間	1975. 3～1978. 3	国内協力機関	日本大学医学部
署名年月日	1975. 3. 1	相手国実施機関	
協力概要	本件プロジェクトは、当初、外務省ベースにて無償資金協力を実施し、以後JICAベースで専門家派遣事業を主体とした協力を実施した。 1975年3月には、医療協力実施協議調査団を派遣して具体的協力内容、分野、期間等をR/Dに取り決め、プロジェクト方式により協力に着手することとなった。 協力内容は、新チョーライ病院業務の管理運営のための集中管理方式の導入並びに医療技術のレベルアップのための協力である。 しかし、その後の現地事情の激変により派遣専門家は総引き上げをするに至り、本件プロジェクトは事実上、中断した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
73	基礎調査	74. 3. 14～74. 3. 28						
74	実施協議	75. 2. 23～75. 3. 4	1	14				
75			1	ー				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ヴィエトナム	プロジェクト名	チョーライ病院
協力期間	1995. 4. 1～1998. 3. 31	国内協力機関	国立国際医療センター 国際医療福祉大学
署名年月日	1995. 2. 27	相手国実施機関	保健省、チョーライ病院
協力概要	ヴィエトナムにおける保健衛生環境は、十分な医療が施せない状況になっており、国民の健康状態に深刻な影響を及ぼしている。同国政府は、このような状況に対し、医療水準の向上を図るため、チョーライ病院に対し、医療機材の供与、専門家の派遣、研修員の受入れ等の技術協力の実施を要請越した。 本件プロジェクトは、チョーライ病院の機能強化を図ることを目的に、病院管理、脳外科疾患、消化器疾患、循環器疾患、ICUに対する協力を行うものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	事前	94. 3. 28～94. 4. 6						
94	長期	94. 7						
〃	実施協議	95. 2. 20～95. 3. 1						
95			0	4	15	内視鏡、ﾃﾚﾋﾞｼｽﾃﾑ	60,000	4
96	計画打合							
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR							
	94－48	95－09							

国　　名	アフガニスタン	プロジェクト名	国立WAK病院
協力期間	1967. 8～1975. 3 （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ）1975. 4～1978. 3	国内協力機関	大阪大学医学部
署名年月日	1972. 3. 14	相手国実施機関	
協力概要	国立WAK病院に対する医療協力は、元国王の要望により前大阪大学整形外科教授・水野祥太郎博士を医療事情調査等のため1967年度に約2カ月間、同国に派遣したところが発端になった。 本件協力の当初の目標は、日本における独創的な技法と実績を基礎として、欧米医学と競い合い日本の医学的評価を高めることにあった。同病院整形外科部門に対しては、1967年度より専門家派遣、機材供与、及び研修員受入れ等の事業を実施してきたが、一応初期の目的を達成したので1974年度で協力終了し、以後1978年3月まで、フォローアップ協力を行った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
67			―	3		整形外科手術機材		
68			2	9		〃		
69			4	4		X線装置、医薬品		
70			4	5		医薬品		
71	実施協議	72. 3. 2～72. 3. 16	4	1		患者搬送用自動車		
72			4	8		手術台、医薬品		
73			7	―		整形外科用機材		
74			4	2		手術用ｺﾞﾑ手袋		
75			2	―		高圧蒸気滅菌装置、ｹｰﾌﾞﾙ式ﾃﾞﾝﾏｰﾄﾑ		
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	アフガニスタン	プロジェクト名	マラリア・結核対策
協力期間	マラリア対策1974. 11～1976. 3 結核対策1974. 11. ～1979. 3	国内協力機関	(財) 結核予防会結核研究所
署名年月日	1974. 11. 14	相手国実施機関	
協力概要	アフガニスタンからの医療協力要請に対し、1974年3月、医療協力基礎調査団を派遣し、同国の医療事情を調査した。その際、アフガニスタン国厚生大臣が、①マラリア対策、②結核対策について、優先順位を付しての協力を要請してきた。同調査団は、調査結果を検討した結果、前記2分野での協力は可能であり、また両国にとって極めて有意義なプロジェクトになり得るとの結論を得た。この結論に基づき1974年11月に事前調査団を派遣し、R/Dを取り交し、マラリア対策及び結核対策に対し、それぞれ2年及び5年間協力することを取り決めた。 協力内容は、マラリア対策に関しては機材供与（医薬品の供与）事業を主体に実施し、結核対策に関しては、治療並びに研究指導等を主体に実施するものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
73	基礎調査	74. 3. 17～74. 3. 31						
74	実施協議	74. 11. 2～74. 11. 16				医薬品	4,066	
75			0	1	1	X線撮影装置、ﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ	55,033	
76			1	3	3	ﾐﾗｰｶﾒﾗ、X線装置		
						ﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ	46,809	
77			4	1	2	X線撮影装置、自家発電装置	92,211	
78	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	79. 2. 20～79. 3. 6	4	0	3	定着再生装置、孵卵器	98,420	
79	同上報告書作成		1	4			866	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
						JR			
						79-11			

国　　名	アルジェリア	プロジェクト名	オラン科学技術大学医療センター
協力期間	1978. 4. 1～1983. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1983. 4. 1～1984. 3. 31	国内協力機関	
署名年月日	―	相手国実施機関	オラン科学技術大学
協力概要	1976年3月、アルジェリア政府は、我が国に対し、保健医療分野の技術協力を要請越した。 これに応え、我が国は1976年9月に事前調査団を派遣し、この調査結果に基づきオラン科学技術大学医療センターに対しプロジェクト協力を実施することとなった。1977年9月には本件プロジェクトの詳細技術協力計画をアルジェリア側関係者と協議するため、実施協議調査団を派遣し、R/Dを取りまとめ署名した。 本件プロジェクトは、オラン科学技術大学医療センターにおいて眼科学、血液学、腫瘍学、遺伝学分野での研究並びに人材養成に対し、プロジェクト方式により技術協力するというものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
76	事前調査	76. 9. 25～76. 10. 13						
77	実施協議	77. 9. 29～77. 10. 14	―	2				
78			―	4		眼科用検診車、手術用顕微鏡	49,690	4
79	計画打合	79. 12. 7～79. 12. 22	3	2		眼科用検診車	50,483	
80	同上報告書作成							1
〃			3	6			17,605	
81	計画打合	82. 2. 13～82. 2. 26	4	1			21,784	0
82			2	5			26,346	
82	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	83. 1. 22～83. 2. 5						
83			3	7			33,073	
84								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	エジプト	プロジェクト名	看護教育研究
協力期間	1978. 4. 1～1983. 3. 31	国内協力機関	国立公衆衛生院、聖路加看護大学
署名年月日	―	相手国実施機関	カイロ大学
協力概要	本件プロジェクトは、1974年9月に外務省の招聘により来日したカイロ大学副学長の看護教育に対する医療協力の要請から始まった。この協力要請に対し、我が国は1976年2月に事前調査団、1977年10月には実施協議調査団をそれぞれ派遣し、R/Dを取りまとめ、署名した。 協力内容は、エジプトでは高等看護教育制度及び、保健医療システム地域機構はかなり整備されているが、その反面、看護サービスを担当する看護婦が不足しており、特に公衆衛生看護の機能が未熟であることから、この分野の拡充強化を1978年4月から5カ年間にわたりプロジェクト方式により協力実施するというものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
75	事前調査	76. 2. 8～76. 2. 25						
76								
77	実施協議	77. 10. 14～77. 11. 3	―	3				
78			―	3		看護婦携帯用具、ｵﾌｾｯﾄ機	9,110	6
79			2	―		分娩実習用具	36,287	
80			―	5			120	3
81			―	10			57,623	2
82				13			32,953	
83				4				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	エジプト	プロジェクト名	カイロ大学小児病院 (Cairo University Pediatric Hospital)
協力期間	1983. 7. 1～1988. 6. 30 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1988. 7. 1～1989. 6	国内協力機関	東海大学、昭和大学、聖路加看護大学、聖マリアンナ医科大学、聖マリア病院他
署名年月日	1983. 4. 23	相手国実施機関	カイロ大学小児病院
協力概要	カイロ大学は百数十年の伝統を有し、医学部はアフリカ・中近東諸国の医学にも多大な影響を及ぼす中心的存在であるが、本学部付属小児病院は患者の増大及び設備内容の老朽化が著しく、小児病院の建設に引き続き、最新の設備機器の維持・管理につき技術協力要請がなされた。 次の分野について、小児病院の機能の強化向上を目的として協力が行われた。 (1) ICU. NICU　(2) 感染症免疫・代謝　(3) 先天性異常　(4) 小児神経　(5) 小児外科 (6) 臨床検査　(7) 小児看護　(8) 病院管理		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
82	事前調査	82. 12. 17～82. 12. 28						
83	実施協議	83. 4. 17～83. 4. 26		4			10,737	2
〃	同上報告書作成							
84			2	11			28,921	4
85	計画打合	86. 1. 21～86. 1. 28	6	12			45,791	4
86	巡回指導	87. 2. 21～87. 3. 1		25				4
87	機材修理	87. 4. 10～87. 4. 25		24			129,230	4
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	88. 2. 28～88. 3. 6						
88			9	13		小児手術台、保育器	31,142	6
89			4	1				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	基本設計		
	JR	JR	JR				CR (3)		
	85-08	85-08	86-31				86-119		

国　　名	エジプト	プロジェクト名	カイロ大学小児病院（第Ⅱ期）
協力期間	1989. 7. 1～1994. 6. 30 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1994. 7. 1～1996. 6. 30	国内協力機関	昭和大学・聖路加看護大学・国立病院医療センター・聖マリア病院・神奈川県立こども医療センター・国立小児病院他
署名年月日	1989. 6. 15	相手国実施機関	カイロ大学小児病院

協力概要

カイロ大学小児病院プロジェクト（Ⅱ）の協力終了に先立ち、1994年1月に派遣した評価調査団の評価の結果、所期の目標達成のためには更に2年間のフォローアップ協力が望ましいと判断された。

本件プロジェクトは、カイロ大学小児病院において循環器疾患を含む小児科疾患の診断・治療技術の向上を目指し、以下の協力活動を行う。

(1) 小児循環器疾患の診断技術、治療技術を移転する。
(2) 小児科、小児外科のレベルを向上させる。
(3) 小児看護、臨床検査のレベルを向上させる。
(4) 放射線科技術、ICUに係る技術レベルを向上させる。
(5) 医療機器保守管理を向上させる。
(6) 医療記録・統計、在庫管理等、病院管理に関する技術を向上させる。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
88	事前調査	88. 6. 10～88. 6. 19						
89	実施協議	89. 6. 10～89. 6. 17	0	7	12	人工呼吸器、酸素飽和計	95,000	6
90			7	2	13	外科用XTV装置、超音波血流計	45,520	6
91	計画打合	91. 4. 21～91. 5. 5	8	5	12	ﾍﾓｸﾞﾛﾋﾞﾝﾒｰﾀｰ、誘発電位検査装置	24,031	6
〃	機材修理	92. 3. 19～92. 4. 10					42,000	6
92	巡回指導	92. 5. 25～92. 6. 3	6	5	16	X線透視装置／ﾚｰｻﾞｰﾒｽ	42,000	6
93	終了時評価	94. 1. 20～94. 1. 29	7	3	15	ﾚｰｻﾞｰﾒｽ、ｶﾃｰﾃﾙ	55,000	6
〃	機材修理	93. 12. 1～93. 12. 14						
〃	機材修理	94. 3. 18～94. 4. 7						
94			3	3	10	ｾﾝﾄﾗﾙﾊﾞｲﾋﾟﾝｸﾞ酸素用器具／高圧ｹｰﾌﾞﾙ	35,000	3
95			5	1	14		48,000	4
96	ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ終了時評価	96. 4. 12～96. 4. 25						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR		JR			
	88-61	90-08	91-25	92-16		94-06			

国　　名	エジプト	プロジェクト名	家族計画・母子保健
協力期間	1989. 9. 19～1992. 9. 18 （延長）1992. 9. 19～1994. 3. 31	国内協力機関	国立病院医療センター
署名年月日	1989. 9. 19 （延長）1992. 8. 29	相手国実施機関	国家人口審議会
協力概要	エジプトの人口は21世紀初めには現在の2倍となることが予想され、国家開発への大きな障害となる。このためエジプト政府は、人口増加率の引き下げ、人口分布の適正化（都市と農村の格差是正）を掲げ、その実現へ向けて下記を重点施策とし、これら施策の実現のため、我が国に対し協力を要請してきた。 (1) 農村地帯における家族計画の普及と改善 (2) 妊産婦及び乳児の死亡率の引き下げのための、医療サービスの向上 (3) 農村部の開発による人口の都市集中の抑制 エジプトにおける質の高い家族計画・母子保健サービスの提供及び産婦人科超音波診断技術のトレーニングの実施による家族計画・母子保健サービスの向上のためのパイロットモデルを構築することを目的として、主に以下の事業を行った。 (1) 検診車を利用した妊産婦診断技術の向上 (2) 検診車を稼働させるスタッフの研修 (3) IECを活用した質の高い家族計画・母子保健サービスの提供のための検診車活動 (4) 超音波診断技術の研修 (5) 地域における家族計画・母子保健や上記活動に係る調査や評価		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
87	基礎調査	88. 2. 1～88. 2. 20						
88	事前調査	89. 4. 10～89. 4. 22						
89	実施協議	89. 9. 13～89. 9. 22	0	3	0	車輌、薬品、ﾊﾟｰｿﾅﾙｺﾝﾋﾟｭｰﾀｰ	80,000	2
90	計画打合	91. 1. 13～91. 1. 26	3	0	2	超音波診断装置	57,000	2
91	巡回指導	92. 2. 8～92. 2. 23	3	1	2	分娩監視装置	50,000	4
92	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	92. 6. 13～92. 6. 26		6	6	ﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ、ﾍﾞｸﾄﾙｽｺｰﾌﾟ	10,000	3
93						検診用車輌、ｶﾗｰﾓﾆﾀｰ	33,000	
94								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
			JR	JR		JR			
			91-23	92-35		92-34			

国　　名	エジプト	プロジェクト名	カイロ大学看護学部
協力期間	1994. 4. 1～1999. 3. 31	国内協力機関	札幌医科学大学保健医療学部
署名年月日	1993. 10. 20	相手国実施機関	教育省カイロ大学医学部看護学科（HIN）
協力概要	エジプトはこれまでに我が国が行った看護教育研究プロジェクト及びカイロ大学小児病院プロジェクトを高く評価し、看護教育指導者の育成を図るため我が国に対しカイロ大学医学部看護学科を拠点とする、校舎建設の無償資金協力及びプロジェクト方式技術協力の要請越した。 看護学部の機能を強化し、レベルアップすることを目標とする。このため以下の成果を目指す。 (1) 看護教育方法とカリキュラムが改善される。 (2) 看護教育に当たる教員が養成される。 (3) 教育及びトレーニングに活用される教育用メディアが強化される。 (4) 看護学部運営技術が向上する。 (5) 看護実習施設の指導者、看護婦の技術能力が向上する。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
89	事前	89. 9. 1～89. 9. 7						
90								
91								
92								
93	実施	93. 10. 15～93. 10. 24						
94			0	3	9	ｽﾃｰｼｮﾝﾜｺﾞﾝ、自動両面ｺﾋﾟｰ機	30,000	3
95	計画打合	95. 4. 28～95. 5. 7	2	4	13	車輌、蒸気滅菌器	37,000	4
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	CR (2)	JR							
	90-05	93-34							

国　　名	イラン	プロジェクト名	テヘラン大学公衆衛生学部
協力期間	1967. 7～1969 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1970	国内協力機関	岐阜大学
署名年月日	1967. 7. 29	相手国実施機関	
協力概要	1966年度に派遣された医療協力調査団の調査結果に基づき、1967年7月医療協力実施協議調査団を派遣し、テヘラン大学公衆衛生研究所における産業医学講座開設に対する協力の打合せを行い、あわせて基礎産業衛生部門における専門家派遣、機材供与、研修員受入れによるプロジェクト協力を実施する旨のR/Dを取り決めた。これまでに、産業衛生講座の開設に協力するため、産業衛生、産業保健等の専門家を派遣するとともに、必要機材を供与した。 また、同学の教育病院であるフィローズガル病院の内視鏡部門を強化するため内視鏡等を供与した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
67	実施協議	67. 7. 10～67. 7. 30	―	1			8,226	
68			1	4		内視鏡	12,567	
69			2	3			617	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	イラン	プロジェクト名	ポリオ対策
協力期間	1967. 7～1968. 6	国内協力機関	国立予防衛生研究所
署名年月日	1967. 7. 29	相手国実施機関	
協力概要	1967年7月に派遣した医療協力実施協議調査団とイラン政府とで合意したR/Dに基づいて、我が国は衛生状態の悪い都市（アバダン、コーラムシャー等）へ、ポリオワクチンを投与すべく、1967年度ポリオ撲滅指導専門1名及び1968年度ウイルス学専門家等3名の合計4名を派遣した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
67	実施協議	67. 7. 10～67. 7. 30	－	1		生ﾎﾟﾘｵﾜｸﾁﾝ	22,430	
68			－	3				
69								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	イラン	プロジェクト名	テヘラン大学医学部
協力期間	1970. 12～1976. 11	国内協力機関	岐阜大学
署名年月日	1971. 1. 6	相手国実施機関	

協力概要

本件プロジェクトは、1971年1月、イラン側関係者と日本側調査団との間に確認されたR/Dに基づき、テヘラン大学医学部の異常血色素部門及び核医学部門の2部門に対し、研究指導を実施するものである。異常血色素部門に対しては、アミノ酸分析装置、積分計、分離用超遠心機、卓上型電子顕微鏡等を供与し、また、核医学部門に対しては、シンチレーションスキャナー、CRTユニット等の機材を供与した。

R/Dによる協力は1974年度で終了した。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
70	実施協議	70. 12. 22～71. 1. 7				気管支鏡	4,931	
71						ｼﾝﾁﾚｰｼｮﾝｽｷｬﾅｰ	18,255	
72			ー	7		ｱﾐﾉ酸分析装置	16,412	
73			1	2		ｶﾞﾝﾏｰｶﾒﾗ	18,459	
74			ー	4		超遠心機	15,946	
75								
76			1	1				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	イラン	プロジェクト名	産業衛生・核医学
協力期間	1978. 4. 1～1982. 3. 31	国内協力機関	産業医学総合研究所
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要	1977年10月に派遣された実施調査チームとテヘラン大学との間に取り交された討議議事録に基づき、同大学公衆衛生学部産業保健学講座及び核医学内分泌学研究所に対し、1978年4月より以下のような協力を行うものである。 (1) 労働環境条件に起因する健康の実施調査研究。重要な健康障害の研究等の工業化に伴う人間生活環境の改善。 (2) 医用放射性同位元素（RI）データ処理過程設置への協力。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
77	実施協議	77. 10. 3～77. 10. 19	－	2				
78			－	1				
79								
80								0
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	スーダン	プロジェクト名	ハルツーム教育病院 (Khartoum Training Hospital)
協力期間	1985. 4. 1～1990. 3. 31 (延長) 1990. 4. 1～1992. 3. 31	国内協力機関	岡山大学
署名年月日	1984. 12. 26	相手国実施機関	保健省
協力概要	スーダンの気候風土、生活慣習等の諸条件から消化器、泌尿器、耳鼻咽喉に関する疾病が多発しており、このための専門医の養成が急務であった。 消化器、泌尿器、耳鼻咽喉3科の協力目的・内容は以下のとおりである。 (1) 疾病に関する診断、治療技術の向上 (2) 臨床研究能力の向上、特に泌尿器、耳鼻科は外科からの分離独立創設 (3) 国レベルのリフェラルセンターとしての臨床検査部門の強化 (4) 医師及びパラメディカルのスタッフの教育、訓練の質の向上		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
83	事前調査	83. 12. 7～83. 12. 21						
84	実施協議	84. 12. 15～84. 12. 30						5
85								0
86	計画打合	86. 12. 13～86. 12. 21					33,217	3
〃	機材修理	87. 3. 20～87. 4. 16	0	0	6			
87			0	1	8		12,584	5
88	巡回指導	88. 11. 26～88. 12. 7	1	0	8	超音波診断装置	28,479	4
89	機材修理	89. 10. 18～89. 10. 28	1	1	9	書籍、人工呼吸器	43,035	4
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	89. 11. 23～89. 12. 3						
90			2	0	8	X線ﾓﾆﾀｰ、胆道ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ	89,564	7
91	機材修理	92. 3. 19～92. 4. 10	2	0	11	超音波監視装置	31,851	4
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR		JR			
	84-14	85-48	87-02	89-40		92-05			

国　　名	テュニジア	プロジェクト名	薬品品質管理
協力期間	1978. 4～1982. 3 （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ）1982. 4～1983. 9	国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要	テュニジア政府は当初がん対策関係の協力を我が国に要請してきた。この要請に対し、我が国は、1976年に事前調査チームを派遣、同国の医療事情を調査し、我が国の協力可能な分野を提示した。その結果、同国政府は「医薬品品質管理及び検定に関する試験研究」を選択した。その後、1982年実施協議チームが派遣され討議議事録の署名をへて協力が開始された。 協力内容は、同国の薬品品質管理体制の確立を目指し、①薬品の化学分析、機器分析、微生物学的試験、②薬物学の研究に対する協力を行うものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
76	事前調査	76. 9. 25～76. 10. 13						
77								
〃	実施協議	77. 12. 3～77. 12. 18						
78				3			69	
79			1	1		自動光電分光光度計	41,938	5
80			2	7			39,180	2
81	機械修理	81. 6. 30～81. 7. 14						
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	81. 11. 27～81. 12. 10	2	－				2
82	同上報告書作成			2			85,681	
83				4			15,499	
84								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	事後		
						JR	JR		
						82-13	88-31		

国　　名	テュニジア	プロジェクト名	人口教育促進
協力期間	1993. 3. 23～1998. 3. 22	国内協力機関	国際基督教大学 東京国際大学
署名年月日	1993. 3. 23	相手国実施機関	国家人口家族公団（ONFP）
協力概要	テュジニア政府は第8次5カ年計画（1992～96年）の中で人口・家族計画事業を国家開発推進のための重要課題として位置付け、主にIEC（Information, Education, Communication）活動の分野において、我が国に対しプロジェクト方式技術協力を要請してきた。 目標：避妊実施率の向上 成果：①中央視聴覚センターでの制作機材の充実、②制作機材の質的・量的向上、③IEC活動従事者の教材活用能力の向上、④モデルエリアでの普及活動の促進、⑤モデルエリアでのIEC活動に係る調査 活動内容： (1) IEC戦略の策定　(2) ベースラインサーベイ (3) ビデオ機器の供与・操作・管理用トレーニング (4) 教材の制作　(5) IEC活動の実施・促進		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	コンタクトミッション	90. 2						
91	基礎	91. 12						
92								
93	事前	93. 1. 4～93. 1. 18				ﾏﾙﾁﾄﾗｯｸﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞｰ／ｵｰﾌﾟﾝﾘｰﾙﾃｰﾌﾟﾃﾞｯｷ	80,000	
〃	実施	93. 1						
〃	計画打合	93. 11. 20～93. 11. 29						
94			0	4	2	ﾋﾞﾃﾞｵﾊﾞﾝ用車輌／ｽﾀｼﾞｵ用照明機器	80,000	3
95	巡回指導	95. 8. 26～95. 9. 9	2	2	3	ｶﾗｰｽｷｬﾅｰ／ﾋﾞﾃﾞｵﾃﾚｯﾌﾟｼｽﾃﾑ	40,000	4
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR					
	93-07	93-09	93-54	95-18					

国　　名	トルコ	プロジェクト名	人口教育促進 (Project of Promotion of Population Education)
協力期間	1988. 11. 8～1991. 11. 7 (延長) 1991. 11. 8～1993. 11. 7	国内協力機関	日本視聴覚教育学会、国立公衆衛生院
署名年月日	1988. 11. 8 (延長) 1991. 9. 6	相手国実施機関	保健省母子保健家族計画総局
協力概要	トルコ政府は、高い人口増加率（約2.5%）を低減せしめ、国家開発を推進するため、1960年代以降、種々の家族計画事業を実施している。そのうち、教育・広報活動のための教材、キャンペーン資料等の作成を行う、コミュニケーションセンターの拡充につき、要請越した。これに応え1988年10月に実施協議チームを派遣し、討議議事録を取りまとめ署名・交換し協力を開始した。 IEC活動の推進を目的として、①IECに係る調査、②IEC教材作成技術の移転、③必要な機材の供与、④スタッフ研修、⑤IECパイロットセンターの活動支援に係る協力を行う。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
87	ｺﾝﾀｸﾄ	87. 12. 1～87. 12. 10						
〃	基礎調査	88. 2. 26～88. 3. 12						
88	実施協議	88. 10. 28～88. 11. 14		1				0
89			1	8		AV機器	102,488	3
90			3	6		スタジオ用ﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ	68,760	3
91	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	91. 6. 26～91. 7. 6	3	8		VTR再生用VTR	102,508	2
〃						ﾍﾞｸﾄﾙｽｺｰﾌﾟ、ﾊﾞｯﾃﾘｰ	22,000	
92				4	4	ﾋﾞﾃﾞｵﾀｲﾌﾟﾗｲﾀｰ／ｼｽﾃﾑﾃｯｸ	40,000	2
93						ﾍﾞｰﾀｶﾑﾌｫｰﾏｯﾄﾋﾞﾃﾞｵ撮影編集ｼｽﾃﾑ	50,000	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR							
		89-06							

国　　名	トルコ	プロジェクト名	生物製剤品質管理
協力期間	1993. 1. 1～1995. 12. 31 （延長）1996. 1. 1～1996. 6. 30	国内協力機関	バイオメディカルサイエンス研究会 国立予防衛生研究所、（社）細菌製剤協会
署名年月日	1992. 8. 27	相手国実施機関	保健省レフィノク・サイダム中央衛生研究所
協力概要	トルコ政府は、国家保健医療政策の1つとして乳幼児死亡率の低下を挙げ、1985年より予防接種の普及拡大計画を推進しており、本計画の一環としてワクチン、血清等生物製剤の品質管理を行っているレフィック・サイダム中央衛生研究所を強化すべく、品質管理技術の向上及び機材整備を目的としたプロジェクト方式技術協力を我が国に要請越した。 EPI関連のワクチン完成品の検定がWHO基準に準拠して、世界の平均的レベルで実施できるようにすることを目標とする。 レフィック・サイダム中央衛生研究所で現在実施しているEPI関連6品目のワクチン完成品の品質管理技術の向上のため、スタッフのトレーニング、関連機材の整備を中心に技術協力を実施している。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
91	事前	91. 12. 14～91. 12. 23						
92	実施	92. 8. 18～92. 8. 30	0	2	0	高速遠心機／電気泳動装置	149,000	2
93	計画打合	93. 11. 13～93. 11. 22	2	1	7	高速冷却遠心機／車輌	66,000	3
94	巡回指導	94. 10. 10～94. 10. 23	3	3	5	実験台、超音波洗浄機	35,000	4
95	評価	95. 4. 18～95. 5. 1	0	0	11	検査機器、O_2ｾﾝｻｰ	20,000	4
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR	JR	JR		JR			
		92-29	93-53	94-33		95-19			

国　　名	トルコ	プロジェクト名	人口教育促進（II）
協力期間	1993. 11. 8～1998. 11. 7	国内協力機関	国際基督教大学
署名年月日	1993. 9. 23	相手国実施機関	保健省母子保健家族計画総局
協力概要	トルコ政府は、1960年代以降、種々の家族計画事業を実施しており、教育・広報活動のための教材・キャンペーン資料等の作成を行うコミュニケーションの拡充を図るため我が国に対しプロジェクト方式技術協力を要請越した。 本件プロジェクトはフェーズ（I）にて実施した視聴覚教材を中心としたIEC活動の成果を生かしフェーズ（II）として、地域ニーズに基づくIEC活動モデル作りを実施。ひいてはトルコ側による全国レベルでの拡大を目指し、人口教育普及活動の強化に寄与する。 アンカラにおいて、フェーズ（I）に引き続いて視聴覚教材の作成等を進めるとともに、ブルサ及び東部トルコの2つのパイロットエリアにおいてIEC活動普及のモデルを確立するために以下の活動を行う。 (1) パイロットエリアにおける普及活動の実態及びニーズ調査 (2) 地域ニーズにあった普及教材の開発 (3) 普及活動従事者のIEC研修		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	事前	93. 5. 21～93. 6. 2	1	3	1		50,000	3
〃	実施	93. 9. 16～93. 9. 27						
94	計画打合	94. 12. 11～94. 12. 23	2	2	2	ﾐﾆﾊﾞｽ、ｺﾋﾟｰ機	60,000	3
95	巡回指導	95. 12. 11～95. 12. 24	4	2	3	ﾋﾞﾃﾞｵｶﾒﾗ、ﾋﾞﾃﾞｵｽｲｯﾁﾔｰ	48,000	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR						
	93-44	93-45	95-01						

国　　名	イエメン	プロジェクト名	結核対策 (Tuberculosis Control)
協力期間	1983. 9. 1～1988. 8. 31 (延長) 1988. 9. 1～1990. 8. 31 (再延長) 1990. 9. 1～1992. 8. 31	国内協力機関	厚生省、(財) 結核予防会結核研究所
署名年月日	1983. 4. 27	相手国実施機関	国立結核研究所
協力概要	1982年から始まった同国第2次5カ年計画において結核のコントロールは、保健医療分野における重要課題との位置付けがなされていたが、同国保健省の並々ならぬ熱意にもかかわらず進展がなく、結核対策全般及び要員養成について我が国の協力を要請越した。 協力の目的・内容は以下のとおりである。 国家結核コントロールシステムの組織面の改善。 国立結核研究所及び地方センターにおける予防、診断治療技術の開発。結核コントロールプログラム改善のための調査研究。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
82	事前調査	82. 7. 3～82. 7. 17						
83	実施協議	83. 4. 17～83. 4. 30		1			16,872	2
84			1	2			42,571	1
85	計画打合	85. 8. 9～85. 8. 18	3	2			16,798	1
86				15			41,144	2
87	巡回指導	87. 7. 3～87. 7. 12		13			17,680	2
88	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	88. 4. 8～88. 4. 17	4	1	3	気管支内視鏡、X線機器	15,335	2
89	延長後 ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	90. 3. 2～90. 3. 14	4	1	4	診断機器、X線ﾌｨﾙﾑ	18,280	4
90	計画打合	90. 9	3	2	4	顕微鏡、車輌、パソコン	21,911	6
91	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	91. 9	3	1	4	顕微鏡、付属品他	344	5
92	〃	92. 5	3	0	1	放射線機材	20,000	4
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
			JR			JR			
			85-51			92-11			

国　　名	イエメン	プロジェクト名	結核対策（II）
協力期間	1993. 2. 21～1998. 2. 20	国内協力機関	結核予防会結核研究所
署名年月日	1993. 2. 21	相手国実施機関	保健省 国立結核研究所
協力概要	我が国は1983年から延べ9年間にわたり旧北イエメンにおいて結核対策プロジェクトを実施しているが、依然として首都サナアの治癒率の低さ及び南部と北部の格差等の諸問題が残っており、旧南イエメンへの対策及びPHCレベルでの展開を中心に結核対策全般及び要員養成に係る技術協力を行うため、1992年結核対策（第2期）プロジェクトの実施が要請された。 本件プロジェクトは、国家結核コントロールシステムの組織面の改善、国立結核研究所及び地方センターにおける予防、診断治療技術の開発、結核コントロールプログラム改善のための調査研究及び治療成績の向上、特にオペレーション・リサーチ（OR）地区（アデン及びタイズ）での上記目標の達成を目指し、協力活動を行う。 なお、現在同国の内戦により一時的にプロジェクトの活動を停止中である。（1996年4月1日現在）		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
92	事前	92. 9. 8～92. 9. 19	0	0	0	車輌、心電図計	0	0
93	実施	93. 2. 12～93. 2. 24	0	3	4	四輪駆動車輌、顕微鏡	30,000	6
94	計画打合	94. 1. 18～94. 1. 26	0	0	中止		中止	中止
95	巡回指導	95. 8. 15～95. 8. 30	0	0	3		未定	2
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR					
	92-22	93-16	94-14	95-11					

国　　名	エティオピア	プロジェクト名	帝国中央衛生研究所
協力期間	1968. 7～1974. 6	国内協力機関	国立予防衛生研究所
署名年月日	1968. 7. 18	相手国実施機関	帝国中央衛生研究所

協力概要

帝国中央衛生研究所はエティオピアにおける細菌、ウイルス、血清、寄生虫、疫学等の検査並びに研究機関として中心的な役割を果たしている。我が国は同研究所に対して当初、単発専門家派遣事業として専門家だけを派遣していたが、1968年7月実施協議調査団を派遣し、プロジェクト方式により協力する旨のR/Dを取り決めた。

協力内容は、同研究所における寄生虫部門及び衛生動物部門の2部門を新設し、この2部門に専門家を派遣して研究指導をするとともに、現地カウンターパートを養成し、エティオピアにおける公衆衛生の水準向上に寄与することを目的としている。これまでに専門家派遣及び研修員受入れを実施するとともに、新設部門に必要な研究用機械類を供与し、1974年度をもって協力を終了した。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
67			－	1		実体顕微鏡	5,708	
68	実施協議	68. 7. 4～68. 7. 25	1	4		光学機械、医薬品	8,838	
69			5	4		分光光度計	12,167	
70	計画打合	71. 2. 3～71. 2. 23	5	4				
71			5	2				
72			3	2				
73	計画打合	73. 10. 20～73. 11. 8	5	－				
74			1	－				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	エティオピア	プロジェクト名	天然痘対策
協力期間	1971. 12～1974. 11 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1974. 12～1975. 11	国内協力機関	長崎大学
署名年月日	1971. 12. 17	相手国実施機関	
協力概要	WHOは1966年から痘そう撲滅計画を推進していたが、エティオピアにおける天然痘発生率が特に著しくWHOは同国に撲滅対策の重点を置くこととし、1971年エティオピア政府は、我が国に対し、同国の痘そう撲滅計画への協力を要請してきた。1971年12月実施協議調査団を派遣、1972年、1973年の2カ年にわたり、疫学専門家及び青年海外協力隊員の派遣、痘そう対策車、無線機等の機材供与を行った。本プロジェクトは、1975年1月派遣専門家の任期満了により終了したが、計画開始後患者発生数が激減するなど、多大な成果を上げた。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
71	実施協議	71. 12. 2～71. 12. 21						
72			－	1		天然痘対策車		
73	計画打合	73. 10. 20～73. 11. 8	1	1				
74			1	－			－	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	エティオピア	プロジェクト名	感染症
協力期間		国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要			
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
95	基礎調査							
96	事前							
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	基礎		
							JR		
							96-08		

国　　名	ガーナ	プロジェクト名	ガーナ大学医学部
協力期間	1968. 7. 4～1980. 6. 7 （延長）1980. 6. 8～1985. 3. 31	国内協力機関	福島県立医科大学
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要	1967年、ガーナ政府よりガーナ大学医学部への解剖学を始め主として基礎医学部門への医療協力についての要請がなされ、これに対し我が国は、野口英世博士に縁の深い福島県立医科大学が協力機関となり医療協力が開始された。1968年6月に実施協議調査団を派遣し、第1次プロジェクトのテーマを基礎として「低栄養と感染症」をテーマとする第2次プロジェクトの実施が双方で合意された。1976年5月に第2次プロジェクトのエバリュエーション調査団を派遣の結果、第3次プロジェクトとして「病態生理学と免疫学」の分野で医療協力を実施した。1980年6月のR/D協力期間終了に先立ち、同年3月には、エバリュエーション調査団を派遣し、ガーナ側の協力延長要請を背景に過去の協力の成果を評価すると同時に、協力延長に関するR/Dを交換し、今後の協力計画について協議した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
68	実施調査（一次）	68. 6. 20～68. 7. 6	－	3		電顕用機材試薬	2,650	
69			－	5		超遠心機、野外作業車	49,975	
70	実施調査（二次）	71. 1. 11～71. 1. 31	4	1		超低温槽	8,075	
71			3	4		動物飼育用ｺﾝﾃﾅ	14,002	
72	実施協議	72. 6. 28～72. 7. 16	4	3		電子顕微鏡	23,933	
73	基礎調査	73. 6. 14～73. 7. 9	3	7		野外調査車	32,266	
74			6	4		ﾃﾞｼﾞﾀﾙ炎光光度計	29,873	
75			3	6		超音波ﾓﾄｸﾞﾗﾌ	33,051	
76	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	76. 5. 23～76. 6. 12	－	9		室内温度調節機	37,997	32
77	計画打合	77. 5. 23～77. 6. 31	6	6		赤外線分光光度計	80,305	
78			8	12		酸素活性分析機	59,025	
79	機械修理	80. 2. 20～80. 3. 6	9	4		ｶﾞｽｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ、蛍光顕微鏡	126,286	
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	80. 3. 1～80. 3. 24						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR		JR	JR				
		85-46		85-07	85-28				

国　　名	ガーナ	プロジェクト名	ガーナ大学医学部
協力期間		国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要			
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
80	機械修理	80. 7. 26～80. 8. 14	7	14			117,602	4
81	計画打合	81. 6. 21～81. 7. 6	6	7			5,782	3
82	機械修理	83. 2. 19～83. 3. 19	6	8			88,045	2
83								2
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	83. 4. 9～83. 4. 23	5	7			39,217	
〃	巡回指導	83. 12. 17～83. 12. 29						
84								3
〃	機械修理	85. 2. 25～85. 3. 25	6	10			42,598	
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	84. 8. 6～84. 8. 20						
85	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	85. 12. 11～85. 12. 23	4	16			26,917	2
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ガーナ	プロジェクト名	野口記念医学研究所 (The Noguchi Memorial Institute Project)
協力期間	1986. 10. 1～1991. 9. 30	国内協力機関	国立予防衛生研究所、三重大学、徳島大学、東京大学
署名年月日	1986. 8. 26	相手国実施機関	ガーナ大学野口記念医学研究所
協力概要	本研究所は1979年11月、無償資金協力により新設され研究所としての基盤が整いつつあるところ、この基盤を基に、特に当国保健行政に資する感染症対策、栄養改善のための検査、研究機能の充実が急務となっている。ガーナ側に独力で研究を継続し得る能力を与えることを基本ラインとして疫学、ウイルス学、栄養学の3分野に対し協力することとした。 分野ごとの目標は次のとおりである。 ウイルス学 (1) ワクチンの品質管理、保管、輸送法の検討 (2) 予防接種の効果判定、効果的な接種方法の検討 (3) 白血病及びAIDSの血清学的診断と血清免疫学的研究 (4) ウイルス感染症の診断と血清疫学 疫学 (1) 他ユニット及び保健省との協同による検査及び研究によって裏付けを持つ疫学調査 (2) マラリアと下痢症の確定診断と治療法の確立及び住民の健康教育 (3) 疫学専門家の養成 栄養学 (1) 離乳食開発　(2) ビタミンA及び鉄欠乏症、他		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団 種別	調査団 派遣期間	専門家 長期 継続	専門家 長期 新規	専門家 短期	機材供与 主要機材名	機材供与 金額	研修員受入
85	事前調査	86. 3. 24～86. 4. 7						
86	実施協議	86. 8. 16～86. 8. 30		4				3
〃	機材修理	87. 3. 16～87. 4. 4						
87	計画打合	87. 7. 22～87. 8. 1		6			34,577	3
88	計画打合	88. 8. 7～88. 8. 15		10		試薬類、ｶﾞﾗｽ器具類	12,555	3
89	巡回指導Ⅰ	89. 7. 31～89. 8. 14	2	8	10	ﾃﾞﾝｼﾄﾒｰﾀｰ、CO_2ｲﾝｷｭﾍﾞｰﾀｰ	56,585	3
90	巡回指導Ⅱ	90. 8. 2～90. 8. 12	6	6	12	書籍、大型乾燥機	26,567	4
91	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	91. 5. 16～91. 5. 25	5	5	10	検査機器、器具類	13,640	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	巡回指導	計画打合	
			JR	JR	JR		JR	JR	
			87-39	90-51	90-52		89-61	88-46	

国　　名	ガーナ	プロジェクト名	野口記念医学研究所（第Ⅱ期）
協力期間	1991. 10. 1～1996. 9. 30	国内協力機関	国立予防衛生研究所・三重大学・国立療養所三重病院・徳島大学・東京大学医科学研究所
署名年月日	1991. 9. 27	相手国実施機関	ガーナ大学野口記念医学研究所

協力概要

ガーナ政府は我が国のこれまでの協力を高く評価し、研究成果の保健医療行政への反映並びに一般国民への裨益を図るべく新たに技術協力を要請してきたものである。

感染症と免疫学の研究を強化し、感染症への重症化要因の決定とより良い感染症対策を研究する一方、レファランスラボラトリーとしての機能付与、人材育成の場を確立する。具体的には、以下の領域において技術移転を行う。

(1) EPIワクチンの接種・効果の評価
(2) 乳幼児下痢症の実態調査と対策
(3) HIV-1.2感染の実験室診断法の確立と普及並びに疫学的調査研究
(4) 住血吸虫症の疫学・対策研究

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
91	実施協議	91. 9. 20～91. 10. 1	0	3	2		25,000	0
〃	長期	91. 7						
92	計画打合	92. 12. 12～92. 12. 20	1	3	4	FALSCAN/4WDワゴン	35,000	3
93	巡回指導	94. 1. 7～94. 1. 15	4	1	9	ﾏｲｸﾛﾌﾟﾚｰﾄﾘｰﾀﾞｰ／超低温槽	60,000	3
〃	機材修理	93. 9. 18～93. 9. 27						
〃	〃	94. 1. 8～94. 1. 22						
94	運営指導ﾁｰﾑ	95. 1	4	2	7	車輌、炭酸ガス培養器	70,000	3
95			6	0	9	炭酸ガス培養器／超純水作製装置	50,000	3
96	終了時評価	96. 6. 20～96. 7. 2						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
			JR		JR				
			93-06		94-01				

国　　名	ガーナ	プロジェクト名	家族計画・母子保健
協力期間		国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要			
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	基礎		
							JR		
							95-26		

国　　名	ケニア	プロジェクト名	ナクール病院
協力期間	1966. 3～1975. 3	国内協力機関	長崎大学
署名年月日	1968. 7. 10	相手国実施機関	

協力概要	ナクール病院に対する医療協力は1966年3月、長崎大学医学部から内科（1名）、外科（1名）及び看護婦（2名）の合計4名の専門家を中近東アフリカ計画に基づき派遣したことに始まる。 1968年6月、医療協力実施協議調査団を派遣して今までの協力を追認するとともに、今後の協力内容をいかに処理するかについて現地の事情を調査の上、ケニア側の要望事項である①検査室の拡充整備、②専門家の追加派遣の2項目について協議し、専門家派遣、機材供与、研修員受入れのプロジェクト協力について具体的にケニア政府と打合せた。1970年11月、計画打合せ調査団を派遣し、更に継続協力の細目等を打合せ、1972年11月計画打合せ調査団を派遣して、今までの協力についてエバリュエーションするとともに将来計画について討議した。その結果1975年度まで協力することを決定した。
終了時評価	
備　　考	

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
66			4	―		ｶﾞｽﾄﾛｶﾒﾗ、心電図	2,940	
67			4	2		臨床検査用機材	8,014	
68	実施協議	68. 6. 26～68. 7. 13	5	2		X線ﾃﾚﾋﾞ	28,259	
69			4	5				
70	計画打合	70. 11. 25～70. 12. 13	4	4		内視鏡	931	
71			4	6		医薬品	17,171	
72	計画打合	72. 11. 12～72. 11. 27	9	6		凍結真空装置	14,735	
73			9	5				
74	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	75. 2. 6～75. 2. 21	4	6		自動腹膜藻流装置	16,420	
75								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ケニア	プロジェクト名	エンブ病院
協力期間	1968. 6～1973. 6	国内協力機関	大阪大学医学部
署名年月日	1968. 7. 10	相手国実施機関	

協力概要	本プロジェクトは、1967年度に国立療養所の内科、外科及び産婦人科の計3名の専門家を派遣したことに始まる。大阪大学医学部を国内協力機関として協力を実施してきたが、1968年6月医療協力実施調査団を派遣してナクール病院とともに過去の協力エバリュエーションをし、1972年11月の実施協議調査団で取り交された協定どおり、フォローアップ的協力をせず、1973年度で協力を打ち切り、終了した。
終了時評価	
備　　考	

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
67			－	3		外科手術機材	8,014	
68	実施協議	68. 6. 26～68. 7. 13	3	1		X線巡回診療車	28,259	
69			3	4			－	
70			4	1		X線巡回診療車	3,825	
71			2	2		医薬品	5,751	
72	計画打合	72. 11. 12～72. 11. 27	3	2		医薬品	3,571	
73			2	－			－	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ケニア	プロジェクト名	ケニヤッタ病院
協力期間	1970. 1～1975. 3 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1975. 4～1978. 3	国内協力機関	大阪大学医学部
署名年月日	1970. 1. 17	相手国実施機関	
協力概要	1970年1月、医療協力実施協議調査団を派遣し、ケニヤッタ病院ICU創設のために両国間で取り交したR/Dに基づいて①専門家派遣、②機材供与、③研修員受入れのプロジェクト協力をする旨の確約をした。 ケニヤッタ病院のICUは近代医療には不可欠の中央診療部門であり、その収容対象は内科、外科を問わず、重症な心肝機能不全を集中的濃厚治療により回復させるものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
69	実施協議	70. 1. 4～70. 1. 18						
70	計画打合	71. 1. 10～71. 1. 25		4		ICU、関係機材	20,377	
71			1	6		患者看視装置	44,165	
72	計画打合	72. 11. 12～72. 11. 27	5	6				
73			6	4		ﾊﾞｲｵﾌｨｼﾞｵｸﾞﾗﾌ	8,654	
74	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	75. 2. 6～75. 2. 21	5	5		医療機材	13,005	
75			5	2		総循環血液測定装置	9,424	
76				2				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ケニア	プロジェクト名	伝染病研究対策
協力期間	1979. 3. 6～1984. 3. 5	国内協力機関	長崎大学
署名年月日	1979. 3. 6	相手国実施機関	
協力概要	ケニア政府は、伝染病予防に関する協力を我が国に要請してきた。我が国はこれを受けて、1977年7月に事前調査チームを派遣し、協力の可能性につき調査した。その後、この事前調査チーム調査結果に基づき、国立公衆衛生研究所を中心とした伝染病の研究に対する協力を実施するため、1979年2月に実施調査チームを派遣して協力の基本計画につき協議し、討議議事録に取りまとめ署名し、協力を開始した。 協力の内容は、国立公衆衛生研究所を中心に、①ウイルス、細菌、寄生虫等による疾病の基礎研究及び予防の研究、②各種伝染病とりわけ下痢症の血清学的研究、③各種ワクチンの検定機能の強化等を図り、その成果を農村部に設定したモデルエリアに応用しようとするものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
77	事前調査	77. 7. 14～77. 8. 1						
78	実施協議	79. 2. 24～79. 3. 16						
79	同上報告書作成							2
〃			—	3		超遠心機、ﾃﾞｨﾌﾞﾘｰｻﾞ	50,046	
80			3	8			74,106	3
81	計画打合	81. 8. 14～81. 8. 30						1
〃	機械修理	82. 3. 12～82. 3. 29	5	15			62,060	
82	同上報告書作成							
〃	実施協議	83. 1. 17～83. 2. 15	10	7			8,067	
〃							74,340	
83	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	83. 8. 25～83. 9. 4	7	11				
84	機械修理	84. 4. 23～84. 5. 6	3					
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	実施	機材修理	報告書
		JR	JR		JR		CR (1)	JR	JR
		83-12	82-07		84-18		79-15	82-22	82-07

国　　名	ケニア	プロジェクト名	ケニア中央医学研究所 (Kenya Medical Research Institute)
協力期間	1985. 5. 1～1990. 4. 30	国内協力機関	東海大学、札幌医科大学、岩手医科大学、長崎大学熱帯医学研究所
署名年月日	1985. 4. 18	相手国実施機関	保健省、ケニア中央医学研究所（KEMRI）
協力概要	ケニア政府は無償資金協力で建設された中央医学研究所を中心として、同国における医学研究水準（下痢症を中心とする感染症）の向上を目指すため、1984年3月末まで協力してきた伝染病研究対策プロジェクトを更に発展充実させた内容で我が国の協力を要請してきたものである。中央医学研究所を中心としてウイルス、細菌、寄生虫等による疾病基礎的研究及び予防対策、各種伝染病、とりわけ下痢症の血清学的研究を促進し、その成果をモデル地域に応用しようとするものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
84	事前	84. 8. 1～84. 8. 16	0	0	3			3
85	実施協議	85. 4. 11～85. 4. 23	0	5	9		66,578	3
86	計画打合	86. 8. 21～86. 9. 3	5	8	6		19,347	3
87			10	8	4		32,549	4
88	巡回指導	88. 7. 28～88. 8. 11	11	4	4	超遠心機／蛍光顕微鏡	103,001	4
89	評価	89. 11. 10～89. 11. 20	11	3	4	乾燥滅菌器／ｸﾘｰﾝﾍﾞﾝﾁ	28,010	4
90								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR		JR		JR			
	84-39	85-30		88-48		90-07			

国　　名	ケニア	プロジェクト名	人口教育促進
協力期間	1988. 12. 16～1991. 12. 15 (延長) 1991. 12. 16～1993. 12. 15	国内協力機関	文部省、国立公衆衛生院等
署名年月日	1988. 12. 16	相手国実施機関	国家人口開発審議会
協力概要	ケニアは、2000年に人口増加率を2.5%まで引き下げることを目指し、我が国に対し家族計画分野での協力を要請越した。 "望ましい家族規模に関する価値観" に改革をもたらすことを目指し、IEC(Information, Education, Communication) 活動、つまり、情報教育活動を強化する。この観点から、NCPDの組織機能強化と同時に教育用メディアの開発、制作及び情報伝達技術の開発を行った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
86	基礎調査	87. 2. 18～87. 3. 31						
87	事前調査	88. 1. 24～88. 2. 7						
88	実施協議	88. 12. 5～88. 12. 18		2	0	車輌・ｺﾋﾟｰﾏｼｰﾝ、ﾊﾟｰｿﾅﾙ･ｺﾝﾋﾟｭｰﾀ	18,796	2
89				2	7	ｽﾀｼﾞｵ機器、研修用機材	99,510	4
90	計画打合	91. 3. 11～91. 3. 23		4	7	車輌	82,776	2
91	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	91. 8. 4～91. 8. 17		4	3	ｱﾆﾒｰｼｮﾝ製作用機材一式	103,041	3
92				5	1	カメラ、野外録音用機材	30,000	3
93	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	93. 8. 21～93. 9. 5		4	4	車輌、複写機	30,000	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR	JR						
		89-36	90-31						

国　　名	ケニア	プロジェクト名	人口教育促進（II）
協力期間	1993. 12. 16～1998. 12. 15	国内協力機関	国立公衆衛生院、大阪大学 （株）アバコクリエイティブスタジオ、 上智大学、女子栄養大学
署名年月日	1993. 12. 14	相手国実施機関	国家人口開発審議会 ケニアマスコミ研究所
協力概要	1988年12月より我が国はIEC（Information, Education, Communication）活動を通じた人口教育促進プロジェクトを実施してきたが、同プロジェクトが1993年12月15日に終了したことから、ケニア政府は本事業の発展的継続を要請越した。 マルチメディアにより人口関連の情報を普及させ、生活改善と家族計画を促進することを目標に、以下の成果を目指す。 (1) パイロットディストリクトでのAV教材利用者の需要発掘と配布・利用ルートの確立 (2) 家族計画・母子保健他人口関係に係るマルチメディア教材のテーマの多様化 (3) 低価格・手作り教材の利用促進の援助 (4) モデルコミュニティーでのIEC活動とサービスデリバリー・コミュニティー活動との統合 (5) プロジェクト成果の他地域への展開		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	事前	93. 8. 21～93. 9. 8						
94	計画打合	94. 5. 6～94. 5. 22	4	3	4	ｵｼﾛｽｺｰﾌﾟ／ﾊﾟﾀｰﾝｼﾞｪﾈﾚｰﾀｰ	26,000	4
95			1	3	3	AVバン、ﾃｸｽﾄﾛﾆｸｽｵｼﾛｽｺｰﾌﾟ	39,000	4
96	巡回指導	96. 9（予定）						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR		JR						
	93-30		94-37						

国　　名	ケニア	プロジェクト名	感染症研究対策
協力期間	1990. 5. 1～1995. 4. 30 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1995. 5. 1～1996. 4. 30	国内協力機関	東海大学・札幌医科大学・岩手医科大学・長崎大学熱帯医学研究所・大阪大学微生物病研究所・国立長崎中央病院等
署名年月日	1990. 4. 19	相手国実施機関	ケニア中央医学研究所

協力概要

1985年5月より、我が国は無償資金協力で建設した中央医学研究所において、各種伝染病とりわけ下痢症の血清学的研究を推進した「中央医学研究所プロジェクト」を5年間実施した。同プロジェクトが1990年4月末に終了したところ、ケニア政府は、引き続き、感染症研究対策を促進するために、本プロジェクトに対し要請してきたものである。

ケニア中央医学研究所の人材養成及び適正技術の開発を通じて同国のウイルス性下痢症・ウイルス性肝炎・細菌性下痢症・寄生虫学（住血吸虫症・フィラリア症）等の感染症研究対策を発展させ、ケニア国民の健康・保健衛生の改善を図ること。

なお、研究所の研究成果を同国の感染症対策に反映させるべく、保健省の保健医療行政との連係を目指すものである。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	実施協議	90. 4. 14～90. 4. 23	0	9	8	薬品	64,000	2
91	計画打合	91. 7. 14～91. 7. 30	6	10	11	生物顕微鏡、IBMｺﾝﾋﾟｭｰﾀ	80,000	4
91	機材修理	92. 3. 3～92. 3. 22				分子生物学的分析装置、滅菌機、冷却遠心機、超ミクロドーム	15,000	
92				12	11	放射線検出器／ｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ	40,000	5
93	巡回指導	93. 7. 19～93. 8. 10		12	11	高性能液体ｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ／ﾊﾞｲｵｸﾘｰﾝﾍﾞﾝﾁ	40,000	6
94	終了時評価	94. 9. 23～94. 10. 17	7	0			40,000	3
95	機材修理	95. 7. 9～95. 7. 22	2	0	12	コンピュータ、実験用機器	11,000	3
96								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	実施		
		JR	JR	JR		JR	JR		
		90-60	91-41	93-43		94-61	96-12		

国　　名	ケニア	プロジェクト名	感染症研究対策（Ⅱ）
協力期間	1996. 5. 1～2001. 4. 30	国内協力機関	東海大学医学部、札幌医科大学、大阪大学、長崎大学熱帯医学研究所、国立長崎中央病院等
署名年月日		相手国実施機関	ケニア中央医学研究所 (Kenya Medical Research Institute)
協力概要	ケニア中央医学研究所（KEMRI）はケニアの中心的な医学研究所であり、我が国は1990年5月より1996年4月まで感染症対策プロジェクトにより、肝炎、下痢症等の研究に対し協力を行ってきた。ケニア政府は、右プロジェクトの成果を踏まえ同国の最重要課題であるエイズと、小児の主な死因である急性呼吸器感染症等の対策につき、引き続き我が国の協力を要請してきた。 当プロジェクトは、 （1）KEMRIの人材養成及び適正技術の移転を通じて、ケニアのHIV/AIDS、ウイルス性肝炎、ARIの感染症の基礎研究を発展させる。 （2）研究成果をケニアの感染症対策に反映させるべく、ケニア保健省の保健医療行政との連携を目指す。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	実施		

国　　名	ケニア	プロジェクト名	医療訓練学校計画
協力期間		国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要			
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
95	事前	95. 11. 26～95. 12. 11						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR								
	96-10								

国　　名	ナイジェリア	プロジェクト名	イフェ大学医学部
協力期間	1972. 12. 8～1977. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1977. 4. 1～1979. 3.	国内協力機関	東京医科歯科大学
署名年月日	1972. 12. 8	相手国実施機関	イフェ大学医学部
協力概要	イフェ大学は、首都ラゴスより北東約260キロの西部州イフェにあり、1971年医学部が新設されたもので、ナイジェリア政府は同大学医学部の基礎医学教育部門に対して、我が国に医療協力を要請してきた。 この要請に対し我が国は、1972年2月に同大学医学部の新設に係る具体的計画や同国の医療事情等の現地調査をするため基礎調査団を派遣した。この調査団の調査結果を基に、1972年11月に実施協議チームを派遣し、R/Dの署名・交換を行った。 本件プロジェクトの具体的な協力内容は、1972年から5カ年にわたり、生理学、寄生虫学、微生物学の3分野について、専門家の派遣、カウンターパートの受入れ、機材の供与をもって協力を実施するというものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
71	基礎調査	72. 2. 24～72. 3. 16						
72	実施協議	72. 11. 25～72. 12. 11						
73			－	3		実験用双眼顕微鏡	57,021	
74	計画打合	74. 6. 22～74. 7. 6	3	3				
75			3	3		電顕、ﾌﾟﾛｾｯｻｰ	23,042	
76			3	8		脳波計、記録分析装置	35,494	
77			4	5		ﾃｰﾌﾟﾚｺｰﾀﾞｰ、ﾎﾟﾘｸﾞﾗﾌ	46,885	
78			－	4		双眼顕微鏡	9,567	
79								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ナイジェリア	プロジェクト名	ナイジェリア大学医学部
協力期間	1972. 12. 8～1977. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1977. 4. 1～1979. 3.	国内協力機関	東京医科歯科大学
署名年月日	1972. 12. 8	相手国実施機関	ナイジェリア大学医学部

協力概要

ナイジェリア政府は、西部州のイフェ大学への協力要請とともに、東部州のヌエグにあるナイジェリア大学医学部への協力要請をしてきた。これに対し、我が国はイフェ大学医学部の新設に関わる調査等も含めて、ナイジェリアに対する医療協力調査団を派遣した。その結果、イフェ大学医学部への協力と並行してナイジェリア大学医学部への協力を行うこととし、1972年11月に派遣した実施協議調査団がR/Dの署名を行った。

協力内容は、寄生虫学及び病理学等の分野における向上を図ろうとするものである。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
71	基礎調査	72. 2. 24～72. 3. 16～						
72	実施協議	72. 11. 25～72. 12. 11						
73			－	2		実験用双眼顕微鏡	75,590	
74	計画打合	74. 6. 22～74. 7. 6	2					
75			－	4		電気泳動装置、胃内視鏡、大腸内視鏡	24,461	
76			1	－		書籍	339	
77			－	－		超軟骨X線発生装置	45,177	
78			－	3		ｶﾞｽﾄﾛﾌｧｲ、ﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ	4,491	
79			－	1			0	
80			－	－			0	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ナイジェリア	プロジェクト名	ジョス大学医学部
協力期間	1982. 7. 2～1987. 7. 1	国内協力機関	東京医科歯科大学他
署名年月日	1982. 7. 2	相手国実施機関	ジョス大学医学部

協力概要

我が国のイフェ、ナイジェリア両大学への医療協力の実績がナイジェリア関係者の間で高い評価を得ていることに鑑み、1979年7月ナイジェリア政府よりジョス大学医学部（1975年設立）に対する技術協力要請があった。これを受けて我が国は、1980年10月に事前調査チームを、1981年6月にコンタクトミッションを派遣し、先方と具体的協力内容につき協議した結果、本プロジェクトに関する基本的な協力内容について合意に達した。そこで、1982年1月実施調査チームを派遣し、同年7月2日、R/Dの署名・交換が行われた。

本プロジェクトの協力内容は、次のとおりである。

(1) 錫が住民の健康に与える影響の調査・研究
(2) プラトー州における地方特有の甲状腺腫の調査・研究
(3) 小児下痢症の微生物学・寄生虫学的調査・研究
(4) 衛生昆虫の調査・研究

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
80	事前調査	80. 9. 27～80. 10. 28						
81	実施協議	82. 1. 9～82. 1. 22	－	4				
82	同上報告書作成			5			44,499	
83			3	3			38,097	2
84	計画打合	84. 11. 12～84. 11. 26					3,824	2
85	巡回指導	85. 11. 13～85. 11. 28	6	11			31,433	3
86				12			20,491	2
87				9				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	エバリュエーション	アフターケア		
		JR	JR	JR			JR		
		82-15	85-15	85-54			93-42		

国　　名	タンザニア	プロジェクト名	ダルエスサラーム大学医学部
協力期間	1971. 1～1972 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1973～1974. 3	国内協力機関	九州大学
署名年月日	1971. 12. 15	相手国実施機関	
協力概要	タンザニア政府に対する医療協力の一環として、同国の要請に基づき1971年1月医療協力実施調査団を派遣し、①専門家派遣、②機材供与、③研修員受入れのプロジェクト事業で協力する旨のR/Dを取り決め、これに基づきダルエスサラーム大学医学部の解剖学及び組織学の両分野に対し医療協力を実施した。 本プロジェクトは1974年度にてフォローアップ協力を終了させ、完全終了の予定であったが、以後1年間をフォローアップ調整期間として設定し、1975年度をもって完全終了した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
70	実施協議	71. 1. 31～71. 2. 19						
71			－	3		電子顕微鏡	26,002	
72			1	2		顕微鏡、分離用遠心機	8,092	
73	実施協議	74. 1. 12～74. 2. 1	1	2				
74			－	1				
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ		
							JR		
							92-21		

国　　名	タンザニア	プロジェクト名	結核対策
協力期間	1974. 1. 11～1979. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1979. 4. 1～1980. 3. 31	国内協力機関	(財) 結核予防会
署名年月日		相手国実施機関	キボンゴト病院
協力概要	タンザニア政府は、1973年3月に結核及び公衆衛生対策の分野に係る協力の要請をしてきた。このため、我が国は、1974年1月に同国の結核及び公衆衛生対策を含む医療事情全般を調査し、同国関係者と協議するための調査団を派遣した。この結果、結核対策分野での協力を行うことが適当との結論に達し、1974年11月にその具体的な実行計画を策定し、討議議事録を署名するため実施協議チームを派遣した。 本プロジェクトの協力内容は、キボンゴト病院における結核対策医療従事者の訓練に重点を置き、1974年4月から5カ年にわたり指導を通じて同国の結核の治療予防、検査技術の向上を図ろうとするものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
73	基礎調査	74. 1. 12～74. 2. 1						
74	実施協議	74. 11. 26～74. 12. 20				医薬品	1,159	
75			－	1		ｼﾞｰﾌﾟ、X線カメラ	14,187	
76			1			冷却遠心機、ｽﾃｰｼｮﾝﾜｺﾞﾝ	20,964	
77			1	－		ｽﾃｰｼｮﾝﾜｺﾞﾝ	1,324	
78			1	－				
79								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	タンザニア	プロジェクト名	母子保健
協力期間	1994. 12. 1～1999. 11. 30	国内協力機関	三重大学医学部
署名年月日	1994. 11. 7	相手国実施機関	保健省予防保健局母子保健家族計画部 保健省ムヒンビリ・メディカルセンター タンガ州ボンボ病院、コログエ郡病院
協力概要	タンザニアでは全国的にEPIが展開され、乳児の死亡率も改善されてきているものの依然高い。一方、医師、看護婦の不足、医療施設の不備のため、保健医療サービスの普及は容易ではない。また年人口増加率も高い。 このため、同国政府は国家活動計画を策定し、乳幼児・妊婦死亡率の低下等の目標を設定している。このような状況を踏まえ同国は我が国に対し、母子保健プロジェクトの要請を行った。本プロジェクトは、併せて人口増加率の抑制に資することが期待されている。 タンザニアにおいて、母子保健に係る環境を改善し母子疾病率及び死亡率を低下させることを目的とし、具体的には以下の成果を目指す。 (1) ムヒンビリ・メディカルセンター（MMC）小児科のレベルを向上させ、母子死亡率を低下させる。 (2) MMCのEPI疾患のウイルス学的診断能力を向上させる。 (3) モデル地域であるタンガ、コログエ郡において母子保健活動を強化する。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
94	事前	94. 2. 11～94. 2. 27						
〃	長期	94. 6～7	5	6	0	車輌、冷凍庫	15,000	2
〃	実施	94. 8. 3～94. 8. 19						
95	計画打合	96. 1. 14～96. 1. 30	5	1	8	車輌、微量高速遠心機	50,000	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR							
	94-21	94-35							

国　　名	ザンビア	プロジェクト名	ザンビア大学医学部 (School of Medicine University of Zambia)
協力期間	1980. 2. 21～1985. 2. 20 (延長) 1985. 2. 21～1987. 2. 20 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1987. 2. 21～1988. 2. 20 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ延長) 1988. 2. 21～1989. 2. 20	国内協力機関	順天堂大学医学部、日本大学医学部付属板橋病院
署名年月日	1980. 2. 21 (延長) 1985. 2. 20	相手国実施機関	ザンビア大学教育病院
協力概要	1978年6月及び1979年3月の2回にわたりザンビアに専門家を派遣し、保健医療事情調査の結果、小児病が深刻な社会問題となっており、この分野の改善が急務であることが判明した。このため、我が国は1979年6月、ザンビア大学の小児外科及び新生児外科部門の強化を図るため、事前調査団を派遣し、1980年1月には、上記事前調査団の報告を踏まえ、ザンビア関係機関と協議し、更に協力関連事項について調査を行い、協力の基本方針を策定するとともにR/Dとして取り決め、署名・交換した。 協力内容は、同国ルサカ市の大学教育病院において、医学部教官に対し、①新生児管理、②小児外科等の教育技術の移転を、1980年2月から5カ年にわたり行うというものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
79	事前調査	79. 6. 10～79. 6. 26	－	1				
〃	実施協議	80. 1. 29～80. 2. 10						
80	同上報告書作成						71,853	4
81	計画打合	81. 10. 27～81. 11. 8	－	4				2
82	同上報告書作成			2			63,076	3
83				7				3
84	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	84. 10. 27～84. 11. 7	2	2			54,571	3
85	機材修理	86. 3. 2～86. 3. 17		7			57,971	5
86	ｴﾋﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	86. 10. 24～86. 11. 5		5				3
87	機材修理	87. 11. 27～87. 12. 11		16			35,469	1
88				6		心電計、保育器	28,448	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR								
	80-20								

国　　名	ザンビア	プロジェクト名	感染症
協力期間	1989. 4. 1～1994. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1994. 4. 1～1995. 3. 31	国内協力機関	東北大学・三重大学・国立仙台病院・国立療養所三重病院・国立津病院等
署名年月日	1989. 3. 23 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1994. 3. 30	相手国実施機関	保健省、ザンビア大学医学部
協力概要	1980年2月より9年間継続実施したザンビア大学医学部プロジェクト（新生児管理、小児外科分野を中心に協力）が、1989年2月に協力期間を終了したところ、ザンビア政府は同国において対策の立ち遅れている感染症分野に焦点を当てた新プロジェクトの実施につき要請越した。 ザンビア大学医学部及び大学病院の人材養成を通じて、感染症対策の確立・強化を図った。 (1) ラボラトリーにおける感染症診断（特にウイルス性感染症）方法の確立 (2) 上記診断によるザンビア人の感染症患者の病理分析 (3) 病理分析に基づく感染症治療の標準化		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
88	実施協議	89. 3. 16～89. 3. 28						
89	実施設計	90. 1. 9～90. 1. 31	3	0		血液ｶﾞｽ分析装置、酸素濃度計	3,050	3
90	計画打合	90. 9. 14～90. 9. 23	3	3	3	電子顕微鏡、薬品	112,685	6
91			4	3	7	高速冷却遠心機、抗血清等試薬	70,449	5
92			6	0	3	電気泳動装置、ﾒﾃﾞｨｶﾙﾌﾘｰｻﾞｰ	57,000	4
〃	巡回指導	93. 3. 9～93. 3. 21	3	6	0		20,000	4
93	機材修理	93. 3. 29～93. 4. 2		6	4		20,000	4
〃	終了時評価	93. 9. 21～93. 10. 3						
94								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	事前		
	CR (5)	CR (5)	JR	JR	JR	JR	JR		
	88-62	90-01	90-61	93-29	93-17	93-50	94-44		

国　　名	ザンビア	プロジェクト名	感染症対策
協力期間	1995. 4. 1～2000. 3. 31	国内協力機関	国立仙台病院 東北大学医学部等
署名年月日	1995. 3. 21	相手国実施機関	UTH (University Teaching Hospital)
協力概要	ザンビア大学医学部プロジェクトに引き続き、感染症対策のため1989年4月より1994年3月まで小児医療の標準化及びウイルス・ラボラトリーの設立、機能強化のための協力が実施された。ウイルス・ラボラトリーの機能強化についてザンビア側においてはPublic Health Laboratoryの設立構想があり、ウイルス・ラボラトリー強化によりウイルス性感染症のみならず細菌性感染症の検査・診断体制の強化を図ることを主な目的として要請が出された。 協力の目的・内容は以下のとおりである。 (1) ウイルス学のみならず、細菌学・免疫学の手法を駆使した感染症検査・診断技術の向上が図られること。 (2) 首都のみならず、地方においても感染症検査・診断が正確に行える医療従事者が育成されること。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
94	事前	94. 8. 28～94. 9. 11						
95	実施	95. 3. 12～95. 3. 26	0	4	2	車輌、細胞自動解析装置	60,000	3
96	計画打合	96. 3. 3～96. 3. 15						
〃	巡回指導	96. 9						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	エバリュエーション			
	JR								
	94-44								

国　　名	マラウイ	プロジェクト名	公衆衛生
協力期間	1994. 9. 1～1999. 8. 31	国内協力機関	東京女子医科大学、順天堂大学 聖マリア病院
署名年月日	1994. 7. 22	相手国実施機関	保健省公衆衛生研究所
協力概要	マラウイにおいては、保健医療政策上感染症患者の早期発見と対策の確立が重要課題となっており1988年、世界銀行の融資によりCommunity Health Sciences Unit（CHSU）を設立した。しかし十分な効果を上げるには至っていないため、我が国に対して、CHSUの機能強化とモデル地区とCHSUの間にReferral Functionを確立するためプロジェクト方式協力を要請越した。 協力の目的・内容は以下のとおりである。 (1) CHSUにおける感染症診断技術の向上。 (2) モデル地区（サリマ）における感染症疫学調査に基づき、サリマ地区病院とCHSUの間にReferral Functionが確立されること。 なお、①生化学・血液学分野の検査技術、②微生物学、ウイルス学・免疫学分野の検査技術、③疫学、④その他の分野で協力を実施中である。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	事前	94. 1. 21～94. 2. 6	0	5	0			
94	実施	94. 7. 14～94. 7. 29				車輌、複写機	10,000	2
95	計画打合	95. 11. 12～95. 11. 26	5	0	2	生化学分析器、車輌	33,000	2
96	巡回指導	96. 3. 30～96. 4. 6						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR							
	94-18	94-43							

国　　名	ジンバブエ	プロジェクト名	感染症対策
協力期間	1996. 7. 1～2001. 6. 30	国内協力機関	杏林大学、長崎大学、東海大学、群馬大学、福岡県他
署名年月日	1996. 4. 17	相手国実施機関	保健省 (Ministry of Health and Child Welfare) ジンバブエ大学医学部、ブレア研究所
協力概要	ジンバブエにおいては感染症がすべての年齢層の死亡原因の上位を占めており、国家計画においても感染症の予防対策が緊急課題となっている。1995年、同国政府は感染症の予防対策事業を推進させるべくマラリア、結核、住血吸虫症、HIV、呼吸器感染症等の主要感染症を対象とした疫学調査、診断分析体制の強化計画を策定し、その一環として保健省疫学疾病対策部及び公衆衛生検査所等の強化整備に係るプロジェクト方式技術協力を日本政府に要請越した。 当プロジェクトは、保健省内の感染症対策担当機関の行政サービス及び検査、診断、疫学情報分析等の能力の強化を通じて同国の感染症予防対策体制の向上を図る。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
95	事前	95. 11. 14～95. 11. 26						
	実施協議	96. . ～96. .						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	基礎		
	JR						JR		
	95-13						94-16		

国　　名	アルゼンティン	プロジェクト名	健康管理システム
協力期間	1977. 4. 1～1982. 3. 31	国内協力機関	
署名年月日	1976. 12. 17	相手国実施機関	
協力概要	アルゼンティン政府から、同国日会共済会診療所の健康管理システム強化の協力要請があり、1976年3月に事前調査団を派遣し、アルゼンティンの医療の事情や要請の背景を調査した。 その結果、日会共済会診療所に健康管理システムを日本からの医療協力によって強化していくことは、地域医療、職業病対策等も含めて日系農民の健康管理にも有意義であり、またこれが一般アルゼンティン国民にも開かれた共済組織の診療所としてより効果的な役割も果たすので、1976年12月に実施調査団を派遣し、我が方の協力内容等について討議議事録を取り交した。 協力内容は1977年4月1日から1982年3月31日までの5カ年間、日会共済会診療所における診断機能の強化、地域保健活動の強化、データ処理機能強化等における協力をプロジェクト方式により行うものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
75	事前調査	76. 3. 26～76. 4. 22						
76	実施協議	76. 12. 1～76. 12. 20						
77	計画打合	78. 3. 27～78. 4. 10	－	4		多素子生化学自動分析装置	72,233	
78			2	2		検診車、血球計機器	49,208	9
79								
80							28,176	0
81							15,087	0
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	アルゼンティン	プロジェクト名	サンロケ病院消化器病診療研究センター（Gasttronterological Endoscopy Diagnosis and Research Center）
協力期間	1985. 4. 1～1990. 3. 31 （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ）1990. 4. 1～1991. 3. 31	国内協力機関	山口大学、順天堂大学、自治医科大学、大阪市立大学、東京女子医科大学
署名年月日	1985. 1. 9	相手国実施機関	州立サンロケ病院
協力概要	従来、我が国が首都圏において重点的に行った対亜医療協力（単独機材供与、研修員の受入れ）が極めて効率的な成果を収めてきたことから、ゴルドバ始めアルゼンティン全土から医療分野に対する協力要請がなされてきた。アルゼンティン政府としては、内陸部地方の開発が最優先とされ、かつ消化器病対策は循環器系疾患とともに極めて重要な問題であるとしてサンロケ病院を選択し協力要請越した。 サンロケ病院の消化器内科を診断研究センターとして分離独立させ、センターの整備充実を図りつつ消化器病診断治療技術の向上を図る。併せて、同病院のレジデント、国立コルドバ大学医学部の学生、また周辺州の医師に対する教育及び再訓練の場としての役割を果たした。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
84	事前調査	84. 8. 7～84. 8. 19						
〃	実施協議	85. 1. 3～85. 1. 13						
85				0		内視鏡／一般撮影用X線装置	78,361	3
86			0	0	5	ｺｰﾙﾄﾞﾄｰﾑ／自動固定包理装置	54,473	3
87	計画打合	87. 8. 3～87. 8. 16	0	0	3	分光光度計／複合電子走査型超音波診断装置	63,489	3
88	計画打合	88. 8. 1～88. 8. 12	0	0	5	ﾃﾚﾋﾞ内視鏡、ｶﾞｽｸﾛｽﾄｸﾞﾗﾌ	41,209	2
89	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	89. 10. 9～89. 10. 16	0	0	5	内視鏡用超音波観測装置	29,620	2
90			1	9		TV内視鏡光源ﾕﾆｯﾄ	33,024	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	計画打合		
			JR			JR	JR		
			89-26			89-53	87-45		

国　　名	アルゼンティン	プロジェクト名	人口統計
協力期間	1995. 9. 15～2000. 9. 14	国内協力機関	総務庁統計局
署名年月日	1995. 8. 1	相手国実施機関	経済企画庁人口統計局（INDEC）

協力概要

アルゼンティン政府は我が国に対し、より効果的な国家開発計画、人口政策の立案を可能とするため中央政府レベル・地方自治体レベルの統計データの整備と広大な国土に在住する国民全体のデータ整備を図ることを目的としてプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

本件プロジェクトは、①人口統計情報システムの構築、②2000年国勢調査の実施体制整備、③統計職員の訓練体制の確立を目標に、以下の協力活動を行うものである。

(1) 人口統計情報データベースの構築
　モデルエリア5州の人口統計分散処理システムの構築及びネットワークの整備、地理情報システム（GIS）の導入促進

(2) GIS活用による国勢調査区分の設定
　調査票の作成及び効率的調査方法の検討、国勢調査の広報・宣伝

(3) 職員（INDEC本部及び地方統計局）研修プログラムの作成
　パソコン操作による統計分析実習の指導

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
94	事前	94. 8. 15～94. 8. 26						
95	長期	95. 4～95. 5	0	2	1	車輌、電源安定装置	64,000	3
〃	実施協議	95. 7. 21～95. 8. 5						
96	計画打合	96. 11（予定）						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	エバリュエーション	基礎		
	JR	JR					JR		
	94-42	95-14					93-46		

国　　名	ボリヴィア	プロジェクト名	消化器疾患研究対策
協力期間	1977. 4. 1～1980. 3. 31 （延長）1980. 4. 1～1983. 3. 31	国内協力機関	東邦大学医学部
署名年月日		相手国実施機関	

協力概要

ボリヴィア政府より我が国に対し、消化器疾患の分野における技術協力の要請があり、これを受けて1976年3月に事前調査団を派遣し、同国の医療の実情や要請の背景を調査した。更に1976年11月には実施協議調査団を派遣し、R/Dを取り決めた。

本プロジェクトの機能は、ラパス、コチャバンバ、スコレの3地域における、がんの早期診断を中心に疾病の予防、治療、衛生等地域住民の保健向上全般にわたるものであり、本プロジェクトはボリヴィア政府の医療行政の主要な柱の1つである。1980年3月にR/Dによる協力期間が終了するに伴い、1980年2月にエバリュエーション調査団を派遣し、これまでの協力の成果の評価を行い、当該プロジェクトのボリヴィア側移管を検討した。その結果、R/Dによる協力を向こう3カ年間、継続して実施することとし、その協力内容をボリヴィア側関係者と協議した。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
75	事前調査	76. 3. 26～76. 4. 10						
76	実施協議	76. 11. 13～76. 12. 4						
77			0	2	10	遠隔操作式X線ﾃﾚﾋﾞ操作	81,222	7
78	巡回指導	78. 8. 12～78. 8. 26	2	2	8	X線装置、胃ｶﾒﾗ、顕微鏡	154,165	4
79	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	80. 2. 1～80. 2. 22	4	3	7	超音波診断装置	83,173	5
80	同上報告書作成							4
〃	機材修理	81. 1. 23～81. 2. 22	4	1	10	血管撮影装置一式	99,285	
〃	同上報告書作成							
81	同上報告書作成							4
〃	計画打合	81. 7. 31～81. 8. 14	2	2	24	血管撮影装置一式	59,543	
82	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	82. 8. 18～82. 8. 31	5				44,942	7
〃	機材修理	83. 3. 21～83. 4. 5						
83	巡回指導	84. 2. 28～84. 3. 11		10			37,768	
〃	報告書作成							
84							4,997	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ	
			JR			JR	JR	JR	
			94-36			83-21	81-9	89-37	

国　　名	ボリヴィア	プロジェクト名	サンタ・クルス総合病院
協力期間	1987. 12. 1～1992. 11. 30	国内協力機関	国立病院医療センター、病院管理研究所
署名年月日	1987. 11. 12	相手国実施機関	厚生省、サンタ・クルス総合病院、 サンタ・クルス衛生局
協力概要	サンタ・クルス市は近年急速に人口が増加しつつあり、同市唯一の総合病院であるサンファン・ディオス病院が老朽化したために、ボリヴィアはサンタ・クルス市における総合病院の建築の無償資金協力を要請越した。同病院の完成が目前となった1985年5月に内科、外科、小児科、婦人科、病院管理、X線検査、臨床検査、病理、医療機器管理の各分野について技術協力を要請越した。 上記要請に基づき、内科、外科、小児科、病院管理、看護、病理の各分野について技術協力を行うこととし、まず第1次医療の整備を行い、最終的には第3次医療が可能な病院とすることを目的に協力を実施した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
87	事前調査	87. 6. 26～87. 7. 10	0	4	0		2,980	2
〃	実施協議	87. 11. 1～87. 11. 16						
88	計画打合	89. 2. 13～89. 2. 26	4	0	8	人工呼吸器、内視鏡部品	68,886	4
89	巡回指導	89. 11. 18～89. 12. 1	4	1	11	人工呼吸器、心電図ﾓﾆﾀｰ	40,010	6
90			4	3	14	心電図	42,650	5
91			5	1	16	全身用CTｽｷｬﾅｰｼｽﾃﾑ	56,400	6
92			5	0	3	ﾃﾞﾝｼﾄﾒｰﾀｰ、ｴｺｸﾞﾗﾌｨｰ	47,000	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR		JR		JR			
	93-49	87-48		89-54		92-33			

国　　名	ボリヴィア	プロジェクト名	消化器疾患研究対策
協力期間	1992. 10. 1～1995. 9. 30	国内協力機関	東邦大学、東京女子医科大学
署名年月日	1992. 2. 21	相手国実施機関	厚生省、ラパス消化器疾患研究センター、スクレ消化器疾患研究センター、コチャバンバ消化器疾患研究センター

協力概要

我が国の無償資金協力により建設されたラパス、スクレ、コチャバンバの消化器疾患研究センターにおいてプロジェクト方式技術協力が展開され、ボリヴィアの消化器疾患診断能力の飛躍的な向上に大きく寄与した。しかし、依然として高い有病率・死亡率の消化器疾患に係る対策及び高い乳児死亡率の原因である小児下痢症等の消化器感染症の撲滅が保健医療政策上の大きな課題であることを背景に、我が国に対し新たなプロジェクト方式技術協力を要請越した。

上記３センターの活動を強化し、診断・治療技術の一層の向上、人材養成のための研修機能の充実、小児下痢症を中心とした研究・予防活動の活性化と院外保健活動の展開を行うために次の分野で協力を行った。

(1) 内科
(2) 外科
(3) 画像診断・治療
(4) 小児下痢症の病因研究
(5) 地域住民に対する衛生教育

終了時評価

備　　考

協力実績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	事前	91. 3. 1～91. 3. 15						
91	実施協議	92. 2. 16～92. 2. 26						
92	計画打合	93. 2. 22～93. 3. 5	0	1	2	CTスキャナー、ﾗﾊﾟﾛｽｺｰﾌﾟ	69,000	4
93	巡回指導	94. 2. 28～94. 3. 11	1	2	13		32,000	4
94	機材修理		2	0	4		40,000	4
95	評価	95. 7.						
〃	機材修理	95. 9. 2～95. 9. 27						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR					
	91-17	92-10	94-36	94-36					

国　　名	ボリヴィア	プロジェクト名	サンタ・クルス医療供給システム
協力期間	1994. 12. 15～1999. 12. 14	国内協力機関	国立国際医療センター、医療法人　雪の聖母会聖マリア病院、愛知県
署名年月日	1994. 11. 9	相手国実施機関	厚生省

協力概要

「サンタ・クルス総合病院プロジェクト」は、1992年11月に終了したが、救急外来部門の強化及び地域医療の拡充については今後の課題として残された。係る背景からボリヴィア政府は同病院を基点とした初期医療サービスの提供、救急外来システムの確立、更なる財政的自立に向けての病院管理部門の強化及び診療部門の拡充のための教育システムの充実についてプロジェクト方式技術協力を要請越した。

本件プロジェクトの目的・内容は以下のとおりである。

サンタ・クルス総合病院の救急部門の強化を中心とした病院自体の機能強化を図るとともに、同病院の受け持ち地区のヘルスポイントの整備を行うことにより、同病院を基点とした地域医療システムを確立する。

(1) 地域医療システムの確立
(2) 臨床分野における技術移転
(3) 病院機能強化のための病院管理技術の向上
(4) 教育・研修システムの確立による人材育成

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
92	事前	93. 3. 26～93. 4. 8						
93								
94	実施協議	94. 10. 31～94. 11. 12	0	3	0	車輌、X線自動ﾌｨﾙﾑ現像機	18,000	0
95			3	0	4	超音波ｱｽﾋﾟﾚｰﾀｰ／血液計測装置	60,000	4
96	計画打合	96. 9						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR							
		94-65							

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	ペルナンブコ大学熱帯医学研究所
協力期間	1967. 12～1971. 12 （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ）1972～1973	国内協力機関	慶応義塾大学
署名年月日	1967. 10. 13	相手国実施機関	
協力概要	1967年12月、医療協力実施協議調査団を派遣し、レシフェのペルナンブコ大学医学部付属熱帯医学研究所の寄生虫部門の整備拡充のために、慶応義塾大学を協力機関と定め協力を実施する旨のR/Dを締結した。 協力内容は、①専門家の派遣、②機材供与、③研修員受入れの3本柱で協力を実施するものであり、機材供与については、1967年度より寄生虫部門の強化拡充に必要な培養関係器、病理組織関係機関及び化学、免疫関係機器、衛生検査用機材等の協力に必要な機材を1970年度まで供与し、研修員については1967年度から、1972年度まで国内協力先の慶応義塾大学等に10名以上受入れ、寄生虫部門に関する養成者の育成を図った。本プロジェクトは、1974年度に所期の協力目的を達成したため終了させ、1972年度及び1973年度はフォローアップ的協力を実施し、完全終了した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
67	実施協議	67. 10. 9～67. 10. 29				培養・病理免疫関係機器	8,404	
68			－	3		ﾎﾟﾄｸﾞﾗﾌ、試薬	8,419	
69			3	3			5,773	
70			2	3			2,006	
71			3	1		衛生検査機材	－	
72			－	1				
73								
74								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	ペルナンブコ大学免疫病理学 (Immunopathology Center of the Federal University of Pernambuco)
協力期間	1984. 5. 25～1989. 5. 24 (E/N) (延長) 1989. 5. 25～1991. 5. 24 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1991. 5. 25～1992. 5. 24	国内協力機関	慶応義塾大学
署名年月日	(R/D) 1983. 2. 11 (E/N) 1984. 5. 25	相手国実施機関	連邦大学、オズワルドクルズ財団レシフェ研究所
協力概要	同国東北部は最低開発地域で熱帯病の一大流行地であるが、保健医療体制の整備が立ち遅れているため我が国に対し協力が求められた。 ブラジル側が大学構内に免疫病理学センターを建設し、当該センターを拠点とした住血吸虫症、シャガス病、リーシュマニア症、フィラリア症等の熱帯病の研究・対策に対する協力を行った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
82	事前調査	82. 8. 6～82. 8. 20						
〃	実施協議	83. 1. 30～83. 2. 13						
83	報告書作成			2				1
84				3				1
85			0	0	1		199,917	5
86	計画打合	86. 4. 18～86. 5. 13	0	3	8		93,909	1
87	巡回指導	87. 4. 24～87. 5. 3	3	5	8		90,215	2
88	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	88. 4. 29～88. 5. 9	6	2	13	ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ顕微鏡	65,120	3
89			5	2	12	X線ﾃﾚﾋﾞ装置	33,287	5
90			3	1	11	超音波診断装置	31,472	5
91	機材修理	92. 3. 6～92. 3. 23	1	0	0	超音波診断装置他	18,221	0
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR			JR			
	82-36	83-26	86-44			91-37			

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	リオグランデドスル・カソリック大学成人病研究所
協力期間	1974. 1. 1～1976. 12. 31 （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ）1977. 1. 1～1979. 3. 31	国内協力機関	慶応義塾大学医学部
署名年月日	1973. 11. 27	相手国実施機関	リオグランデドスル・カソリック大学成人病研究所
協力概要	1972年度のブラジルに対する医療協力基礎調査に基づき、ポルト・アレグレ市リオグランデドスル・カソリック大学医学部の成人病研究所の新設に協力することを決定した。 1973年度に実施協議調査団を派遣し、ブラジル側と討議議事録を取り交し、1974年1月1日から3カ年間にわたり、①脳動脈分野を含めた循環器部門及び、②消化器部門について専門家の派遣・研修員の受入れ、及び、機材供与の3つの形態を有機的に結び付けたプロジェクト方式協力を実施することとなった。 1976年12月31日で当初の協力期間は終了したが、1977年2月に派遣したエバリュエーション調査団の評価の結果、引き続きフォローアップ協力を実施した。本プロジェクトは、フォローアップ協力の満了となる1979年3月31日をもって終了した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
72	基礎調査	73. 1. 21～73. 2. 21						
73	実施協議	73. 11. 24～73. 12. 14	－	1		X線ﾃﾚﾋﾞ装置	63,365	
74			1	3		X線装置ﾄﾚｯﾄﾞﾐﾙ	51,822	
75	計画打合	75. 11. 25～75. 12. 9	2	3		心電図、ｶﾗｰﾃﾚﾋﾞｴﾝﾄﾞｽｺｰﾌﾟ	41,245	
76	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	77. 2. 21～77. 3. 7	1	3		眼底ｶﾒﾗ	10,107	
77			1	－		体力測定器具、直示天秤	11,915	
78								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	ワクチン製造
協力期間	1980. 8. 13～1983. 8. 12 （延長）1983. 8. 13～1984. 8. 12	国内協力機関	
署名年月日	1980. 8. 13	相手国実施機関	ブラジル国衛生部
協力概要	ブラジル政府は、麻疹ワクチンとポリオワクチンの生産及び品質管理に対する協力を我が国に要請してきた。我が国はこれを受けて、1980年1月事前調査チームを派遣し、協力の可能性を調査した。その後、1980年8月実施協議チームを派遣し、R/Dの署名をへて協力を開始した。 協力内容は、同国衛生部所属のオズワルドクルズ財団に対し、 (1) 麻疹ワクチンの生産、品質管理技術の移転 (2) ポリオワクチンの品質管理機能の確立と生産体制に移行するための技術指導 を行おうとするものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
79	事前調査	80. 1. 11～80. 1. 29						1
80	同上報告書作成							7
〃	実施協議	80. 7. 31～80. 8. 18	0	0	5		82,507	
81			0	1	5		189,536	3
82	巡回指導	82. 4. 20～82. 5. 4	1	0	7		233,138	3
83	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	83. 7. 11～83. 7. 25	1	0	2		87,936	
84			1	10			50,094	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ		
	JR	JR				JR	JR		
	81-14	81-36				84-09	90-53		

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	カンピーナス大学消化器病診断・研究センター
協力期間	1990. 7. 6～1995. 7. 5 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1995. 7. 6～1996. 7. 5	国内協力機関	富山医科薬科大学、琉球大学
署名年月日	1988. 5. 16 (修正) 1990. 7. 6	相手国実施機関	カンピーナス州立大学
協力概要	ブラジルでは近年食道静脈瘤疾患が急増しているが、その一連の消化器管の出血原因の究明・治療についてはいまだ確立されていないので、我が国に対して協力が求められた。 ブラジル側がカンピーナス大学構内に消化器病診断センターを建設し、当該センターを拠点として、近年同国で急増している食道静脈瘤疾患及び消化器の出血原因を種々の角度（内視鏡・内科・外科・放射線・病理・寄生虫等）から究明し、診断・治療技術の基礎を移転するとともにシステムを確立することを目的として協力を行った。 (1) 住血吸虫症感染に起因する食道静脈瘤患者の早期診断・治療技術の移転 (2) 上記疾患に対する病理学的診断技術の向上、併せ早期胃癌発見率向上のための診断技術の移転 (3) 上記 (1) の原因である住血吸虫症に対する感染予防とコントロールに資する疫学的基礎研究		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
87	事前調査	87. 11. 24～87. 12. 10						
88	実施協議	88. 5. 8～88. 5. 20						2
89								
90	計画打合	90. 11. 9～90. 11. 25	0	4	0	十二指腸ファイバースコープ	97,000	1
91			3	1	9	ﾐｸﾛﾄｰﾑ、自動脱水包理装置	68,000	3
92	巡回指導	92. 11. 25～92. 12. 9	2	1	11	超音波診断装置／ﾋﾞﾃﾞｵｴﾝﾄﾞｽｺｰﾌﾟ	56,000	3
93	運営指導専門家チーム	93. 9	2	1	16	超音波内視鏡/炭酸ｶﾞｽ孵卵器	62,000	4
94	終了時評価	94. 10. 25～94. 11. 9	3	2	11	超音波手術器／内視鏡ﾕﾆｯﾄ	60,000	3
95			2	0	5	内視鏡ﾋﾞﾃﾞｵｺﾝﾊﾟｰﾀ／高速微量遠心機	15,000	1
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	運営指導		
	JR	JR	JR	JR		JR	JR		
	88-03	89-10	91-06	93-41		95-10	94-04		

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	東北ブラジル公衆衛生
協力期間	1995. 2. 10～2000. 2. 9	国内協力機関	慶應義塾大学、国立国際医療センター
署名年月日	1994. 11. 29	相手国実施機関	ペルナンブコ大学保健学部、 ペルナンブコ州衛生局 公衆衛生共同センター（Núcleo）
協力概要	ブラジル政府はペルナンブコ州レシフェ市の国立ペルナンブコ大学病院を同州の医療システムの中核となる近代的保健センターへ改組し、同時に同州の保健医療状況の全体的底上げを図るべく技術協力の実施を要請越した。これを受け我が国は、1993年10月に事前調査、1994年2～4月に長期調査を実施し、同年11月にR/Dを締結した。 本件プロジェクトは、感染症等の予防治療体制の強化等を通じたブラジル政府のSUS事業（統一保健医療システム＝保健所レベルでの一次医療から大学病院等三次・四次医療までを包括した地域医療の体系化を目指す）の促進により東北ブラジルの保健医療サービスの向上に寄与する。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	事前	93. 10. 29～93. 11. 13						
〃	長期	94. 2						
94	実施協議	94. 11. 21～94. 12. 4	0	4	0	車輌、血液自動測定器	25,000	2
95			0	1	8	細菌検査装置／小型バス	65,000	4
96	計画打合	96. 4. 8～96. 4. 25						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	エバリュエーション			
	JR	JR							
	93-40	95-22							

国　　名	ブラジル	プロジェクト名	家族計画・母子保健
協力期間	1996. 4. 1～2001. 3. 31	国内協力機関	東京大学医学部国際保健計画学教室
署名年月日	1995. 12. 13	相手国実施機関	保健省、セアラ州保健局

協力概要

ブラジル政府は1993年11月、東北部を対象に新生児への医療支援、下痢症疾患の管理、妊産婦のケア、家族計画等を中心とした母子保健プロジェクトの開始を我が国に要請越した。

本件プロジェクトは、ブラジル東北部セアラ州において保健従事者の能力を強化することにより、母子保健サービス機能を向上させることを目的に、以下の協力活動を行う。

(1) 情報収集及び分析を基礎に置いた母子保健事業の計画策定（情報の収集及び分析、モデルエリアの策定、コミュニティーレベルでの実行計画の策定・実施）
(2) 訓練計画の策定・実施（既存計画見直し、ニーズ同定、訓練計画策定・実施）
(3) モニタリング評価（協力活動のモニタリング、定期的な評価、評価結果のフィードバック）
(4) 上記経験を踏まえた母子保健計画についてセアラ州内の複数の市への普及

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
93	基礎	94. 2						
94	事前	95. 1. 18～95. 2. 1						
95	長期	95. 9	0	0	0		0	2
〃	実施協議	95. 12. 2～95. 12. 16						
96	計画打合	97. 2（予定）						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	基礎		
	JR	JR					JR		
	95-07	96-02					94-27		

国　　名	チリ	プロジェクト名	胃がん対策
協力期間	1977. 4. 1～1980. 3. 31 （延長）1980. 4. 1～1982. 3. 31	国内協力機関	兵庫医科大学
署名年月日	1976. 9. 24	相手国実施機関	
協力概要	チリ政府は、早期胃がん診断技術及び集団検診技術の向上を目指し、そのための協力を我が国に要請してきた。この要請に対し我が国は、本件協力の可能性を調査するため1976年3月に事前調査チームを派遣した。その結果、計画遂行に必要な人材、技術水準が整っており、協力の効果が大きいことが確認された。これを受けて1976年9月に実施協議チームを派遣し、討議議事録の署名をへて協力が開始された。 本件プロジェクトの協力内容は、同国サンチャゴ市の胃がん診療センター及びキジョタ市のサン・マルティン病院を中心に、①胃がん診療技術の向上、②X線間接撮影技術の向上を図ろうとするものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
75	事前調査	76. 3. 28～76. 4. 21						
76	実施協議	76. 9. 14～76. 9. 28						
77			0	0	6	遠隔操作式X線ﾃﾚﾋﾞ装置	84,656	3
78			0	1	4	内視鏡、顕微鏡、車輛	68,484	3
79	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	80. 1. 19～80. 1. 28	0	0	9	集団検診車、ﾏｲｸﾛﾊﾞｽ	68,314	5
80	同上報告書作成							4
〃			3	3			14,497	
81	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	82. 1. 6～82. 1. 19	－	4			43,669	3
82				1				
83	事後調査	83. 7. 4～83. 7. 14		4			32,665	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ		
			JR			CR (2)	JR		
			92-31			80-16	89-31		

国　　名	チリ	プロジェクト名	消化器がん
協力期間	1991. 1. 1～1995. 12. 31	国内協力機関	東京医科歯科大学、 厚生省九州がんセンター
署名年月日	1990. 11. 13	相手国実施機関	保健省首都中央衛生局、 消化器がんセンター

協力概要

我が国は1977年4月より1983年7月までサンチャゴ市の胃がん診断センター等を中心にプロジェクト方式技術協力を実施し、またそれを引き継ぐ形で1981年より同センターにおいて第三国研修（胃腸病学）を計10回にわたって継続実施中である。

上記の協力成果を更に充実させるため、チリ政府は現在多発している大腸がん、胆嚢がん等の消化器がん全般を対象にしてその診断及び治療技術の向上を目的に、我が国にプロジェクト方式技術協力を要請してきた。

消化器がん（食道、胃、大腸、肝臓、胆管、膵臓等）の診断及び治療技術の向上を図る。具体的には、以下の分野において技術移転を行う。

(1) 画像診断（X線、内視鏡、超音波診断、CT等）
(2) 病理診断　　(3) 外科治療
(4) 放射線治療　　(5) 内科治療
(6) その他双方が必要と認める分野

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	事前調査	90. 7. 20～90. 8. 3		0	2		0	0
〃	実施協議	90. 11. 9～90. 11. 18						
91				4	2	CTスキャナー他	85,098	3
92	計画打合	92. 12. 7～92. 12. 21		5	5	超音波診断装置／患者モニター装置	60,000	3
93				5	3	実験台、微量高速遠心機	60,000	3
94	巡回指導	94. 12. 2～94. 12. 14	2	3	9	手術台、マルチ・フォトカメラ	45,000	3
95	終了時評価	95. 10				顕微鏡テレビ一式、外科手術用器具	31,000	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR		JR			
	90-37	90-55	92-31	94-54		95-28			

国　　名	コロンビア	プロジェクト名	中央医学研究所
協力期間	1982. 9～1986. 9	国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	

協力概要

コロンビアでは、結核等伝染病による死亡率が顕著である。このため、免疫学的研究分野の充実及び各種予防ワクチンの製造・検定・品質管理技術の向上を図りたいとして我が国の協力を要請してきた。

この要請に対し、我が国は事前調査団を派遣し、協力の可能性・妥当性につき検討を行った。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
81	事前調査	82. 1. 23～82. 2. 5						
82	同上報告書作成							
〃	実施協議	83. 3. 18～83. 3. 29						
83			0	0	1		63,221	2
84	計画打合	84. 6. 23～84. 7. 2	0	0	0		72,378	2
85	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	85. 11. 16～85. 11. 27	0	0	3		10,000	2
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR					JR			
	82-14					86-16			

国　　名	コロンビア	プロジェクト名	マラリア等熱帯性感染症診断技術開発
協力期間	1986. 10. 1～1989. 9. 30	国内協力機関	国立予防衛生研究所、 （財）化学及血清療法研究所
署名年月日	1986. 7. 22	相手国実施機関	保健省中央医学研究所
協力概要	1983年4月より3年間中央医学研究所生化学及び免疫学部門の基盤整備、強化に協力したところ、コロンビア側は、同協力の成果を踏まえ、マラリア等の診断法開発を目標として研究を発展させるため、技術協力を要請した。 マラリア及び他の熱帯性感染症に関する診断法の開発を通じてコロビア国民の公衆衛生向上に寄与することを目的として、①核配、②免疫学の両部門においてマラリア診断法開発技術の向上を図った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
86	実施協議	86. 7. 13～86. 7. 26		1	0	ﾗﾝﾄﾞｸﾙｰｻﾞｰ、高速冷却遠心機	31,384	1
87			1	0	1	炭酸ガス培養機、ｸﾘｰﾝﾍﾞﾝﾁ	53,339	1
88	計画打合	88. 10. 30～88. 11. 12	1	0	1	冷却遠心機試薬	23,701	1
89	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	89. 6. 18～89. 7. 1	0	0	1	超遠心分離器	12,978	1
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
		JR	JR			JR			
		88-12	89-09			89-50			

国　　名	コロンビア	プロジェクト名	家族計画・母子保健 (Family Planning and Maternal and Child Health)
協力期間	1985. 11. 8～1990. 11. 17	国内協力機関	文部省、厚生省、慶応義塾大学他
署名年月日	1985. 11. 18	相手国実施機関	厚生省
協力概要	コロンビア政府は、人口家族計画政策についてその必要性をつとに認識し、1960年代前半よりその推進に努力してきた。その結果、人口増加率の低減には成果を上げているが、この政策の本旨は、単に人口増加を抑制する観点のみならず、母子の健康保護・増進更には社会的弱者の保護という統合的社会政策の中で位置付けられるものである。これに基づき、家族計画と母子保健をセットにした協力を要請してきたものである。 コロンビアにおいて、特に都市周辺地域及び国境地域に居住する国民に対し、家族計画の普及及び母子保健活動の促進を図り、国民の健康、福祉の向上に協力した。 (1) 専門家派遣：家族計画や母子保健分野の専門家 (2) 研修員受入れ：年間2名程度 (3) 機材供与：家族計画指導員キット、視聴覚機器、診断治療用機器など		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
83	事前調査	83. 12. 3～83. 12. 18		5				
84	同上報告書作成						6,253	
85	実施協議	85. 11. 12～85. 11. 22		4				0
86	巡回指導	87. 3. 21～87. 4. 4		4			149,395	2
87	巡回指導	88. 3. 18～88. 4. 2		4			5,517	2
88				7		血糖分析器、保育器	148,084	3
89	巡回指導	89. 4. 10～89. 4. 24	2	3		移動式保育器	17,259	3
90	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	90. 8. 15～90. 8. 26	2	0		小児用人工呼吸器	97,050	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	協力計画策定専門家チーム		
	JR	JR					JR		
	84-40	86-6					85-32		

国　　名	コスタ・リカ	プロジェクト名	コスタ・リカ大学医学部
協力期間	1973. 11. 2～1976. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1976. 4. 1～1979. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1979. 4. 1～1981. 3. 31	国内協力機関	大阪大学微生物病研究所
署名年月日		相手国実施機関	コスタ・リカ大学医学部
協力概要	コスタ・リカ政府は、同国唯一の総合大学であるコスタ・リカ大学医学部及び付属研究所における熱帯病原、寄生虫等の医学研究及び、微生物学部・農学部の実験・研究のために電子顕微鏡の供与及び操作技術・研究方法に対する協力を我が国に要請した。 これに対し我が国は、1973年10月に実施協議調査団を派遣し、コスタ・リカ政府関係者と協議した結果、同国の基礎医学の研究に必要な機材供与と技術の伝播を組み合わせた型の協力を実施することで合意し、R/Dに署名した。これにより1973年11月より3カ年間、プロジェクト方式による技術協力が行われ、透過型電子顕微鏡、走査型電子顕微鏡、分離用超遠心機等の機材供与、専門家の派遣、及び研修員の受入れが実施された。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
73	実施協議	73. 10. 27～73. 11. 14	－	－		電子顕微鏡	27,726	
74			－	3			899	
75			－	3		高級生物顕微鏡、走査型電子顕微鏡	51,929	
76	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	76. 9. 6～76. 9. 23	2	2				20
77			2	－		電子顕微鏡、乾燥機	18,880	
78			1	2			13,150	
79			2	－			89	
80			1	－				0
81								0
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	コスタ・リカ	プロジェクト名	胃がん早期診断
協力期間	1995. 3. 1～2000. 2. 28	国内協力機関	東京女子医科大学
署名年月日	1995. 2. 28	相手国実施機関	コスタ・リカ社会保障公庫Dr. Max Peralta病院、コスタ・リカ大学
協力概要	コスタ・リカではがんが死因の上位を占めている。うち胃がんは18%を占め、その早期発見率、治癒率は低い。このためコスタ・リカ社会保障公庫（CCSS）とコスタ・リカ大学は胃がん早期診断体制の確立を重点課題としており、診断方法の研究・開発、同システムの調整、活動のシステム化、胃がん関連データ収集・分析を行うべく我が国に協力を要請した。 モデル地区（カルタゴ、Dr.Max Peralta）での胃がん検診システムの確立を目指し以下の協力活動を行う。 (1) 胃がんの早期診断 (2) モデル地区における胃がんの診断情報システム、データベースの確立 (3) 胃がんの疫学的調査・研究 (4) 胃がん検診に係る人材の育成 (5) 本システムに係る病院管理、医療サービスの向上 (6) 集団検診システムの費用対効果の研究		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
94	事前	94. 7. 28～94. 8. 11						
〃	長期	94. 11～94. 12						
〃	実施協議	95. 2. 25～95. 3. 7						
95	計画打合	96. 2. 26～96. 3. 8	0	6	3	車輌、X線テレビ装置	80,000	3
96			1	1	5		40,000	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR							
	94-46	95-23							

国　　名	ドミニカ共和国	プロジェクト名	消化器疾患研究・臨床
協力期間	1990. 1. 1～1994. 12. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1995. 1. 1～1996. 12. 31	国内協力機関	大分医科大学
署名年月日	1989. 12. 14	相手国実施機関	保健省、国立アイバール病院
協力概要	本病院では近年、消化器疾患分野の患者数の増加傾向が窺えるが、同分野における優秀なスタッフ、及び診療機器の不足等により、十分な診療が困難となっている現状である。 係る背景をもとに、1987年7月ドミニカ共和国は保健医療サービス拡充計画の一環として国立アイバール病院を拠点に、消化器疾患診療技術の向上を目的として我が国に対してプロジェクト方式技術協力を要請越した。 双方で合意された技術協力の目的は①臨床医学機能、②検査機能、③疫学的研究機能、④その他、等のレベルアップを図ることとし、これらの分野で5年間にわたり専門家派遣、研修員の受入れ、機材供与を行っていくこととした。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
88	事前調査	88. 11. 15～88. 11. 28						
89	実施協議	89. 12. 8～89. 12. 18	0	4		血球検査計、結腸内視鏡	15,264	3
90			0	11		試薬	10,890	2
91	計画打合	91. 6. 24～91. 7. 5	0	5	2	生化学自動分析器用医薬品	45,655	3
〃						発電機、電気泳動装置	18,000	
92	巡回指導	92. 11. 13～92. 11. 23	5	1	9	下部内視鏡／発電機用部品	30,000	3
93	機材修理	93. 11. 27～93. 12. 10	5	2	9	生化学分析装置、細菌検査用オートスキャン	48,000	5
94	機材修理	94. 4. 8～94. 4. 28						
〃	終了時評価	94. 6	5	2	12	車輌、吸引器、救急カート	37,000	4
95			4	1	11	内視鏡周辺機器、遠心機	40,000	4
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR		JR			
	88-56	89-57	91-39	93-24		94-45			

国　　名	エクアドル	プロジェクト名	微生物病研究対策
協力期間	1977. 4. 1～1982. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1982. 4. 1～1984. 3. 31	国内協力機関	東北大学医学部
署名年月日		相手国実施機関	国立衛生研究所
協力概要	エクアドル政府は、1975年6月、野口英世博士生誕100年の記念事業の一環として、公衆衛生省の熱帯病研究に対する協力を我が国に要請した。これに応え我が国は、1976年4月に事前調査団を派遣し、微生物病研究をプロジェクト化することが最も効率的な医療協力を実施するものと判断され、1977年4月討議議事録を取りまとめ5カ年間にわたる医療協力が開始された。 協力内容は、同国グアヤキル市にある国立衛生研究所に対し、ウイルス、寄生虫病学分野を中心とする熱帯研究、特に免疫学、電子顕微鏡学、免学等の技術の向上を図ろうとするものである。1982年3月には、エバリュエーション調査団を派遣して協力の成果について調査し、今後の方針について協議した結果、2年間のフォローアップ協力を実施することとなった。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
75	事前調査	76. 3. 28～76. 4. 21						
76	実施協議	76. 10. 28～76. 11. 12						
77			－	3		透過型電子顕微鏡	105,905	
78			0	2	3	走査型顕微鏡、遠心機	66,867	2
79	計画打合	80. 3. 9～80. 3. 23	2	2	4	ｶﾞｽｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ、乾燥機	33,645	3
80	同上報告書作成							3
〃			2	1	2		47,215	
81	機材修理	81. 7. 22～81. 8. 6						1
〃	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	82. 3. 10～82. 3. 24	1	0	3		538	
82	同上報告書作成		0	2	0		44,267	
83	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	84. 3. 18～84. 3. 31	2	1	0		15,816	1
〃	機材修理	84. 1. 29～84. 2. 19						
84			2	0	1		1,706	
〃		85. 1. 1～85. 1. 11						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ		
			JR			JR	JR		
			81-5			82-24	84-33		

国　　名	エクアドル	プロジェクト名	消化器病研究対策
協力期間	1986. 1. 1～1990. 12. 31	国内協力機関	順天堂大学、岩手医科大学、宮城県対がん協会
署名年月日	1985. 8. 26	相手国実施機関	がん診療センター社会福祉省、エクアドル社会保障公社、カルロス・アンドラーデ・マリン病院内消化器がん診断センター
協力概要	エクアドルは消化器系疾患による死亡率が約20%と極めて高く、社会保障公社は集団検診等を中心に消化器疾患の早期発見、的確な診断、治療技術の向上を目指している。なお中南米（チリ、ボリヴィア）では同分野での我が国の協力成果が高く評価されている。 社会保障公社管轄カルロス・アンドラーデ・マリン病院内に建設予定の消化器がん診断センターに集検車を中心とした消化器疾患の早期診断体制を築き、診断能力の向上を図った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
84	事前調査	85. 1. 1～85. 1. 11						
85	実施協議	85. 8. 18～85. 8. 29	0	0	2	胃部集団検診車	60,123	
86				0		ｱﾝﾃﾞｨｶｽﾎﾟｯﾄｶﾒﾗ/近接式X線TVｼｽﾃﾑ	74,694	4
87			0	0	7	X線TVｼｽﾃﾑ／ﾊﾟﾗﾌｨﾝ溶融器	82,598	4
88	計画打合	88. 10. 29～88. 11. 5	0	0	1	内視鏡、内科腹腔鏡ｾｯﾄ	16,222	3
89	巡回指導	89. 12. 10～89. 12. 18	0	0	3	内視鏡ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ	17,321	2
90	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	90. 12. 4～90. 12. 14	0	0	4	ﾌｧｲﾊﾞｰｽｺｰﾌﾟ、ﾐｸﾛﾄｰﾑ	22,766	2
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ		
			JR	JR		JR	JR		
			89-01	90-04		90-57	96-11		

国　　名	グァテマラ	プロジェクト名	オンコセルカ症研究対策
協力期間	1975. 10. 1～1980. 9. 30 （延長）1980. 10. 1～1983. 9. 30	国内協力機関	国立予防衛生研究所
署名年月日	1975. 7. 21	相手国実施機関	グァテマラ保健省

協力概要

グァテマラにおけるオンコセルカ症の撲滅に関し、1973年我が国に医療協力を要請してきた。1973年末の予備調査、1975年3月の基礎調査団の派遣を経て同年7月に派遣された実施協議調査団によりグァテマラ政府保健省との間にR/D（期間5年間）が取り交された。

これにより我が国は、グァテマラ国内でのオンコセルカ症研究対策のための医療協力を、次の3点を重要項目として実施することとなった。

(1) オンコセルカ症対策（媒介虫対策及び化学療法を含む）のための基礎調査。

(2) San Vicente Pacaya パイロット地区（300km²）での媒介虫対策を重点とするオンコセルカ症対策の実施。

(3) グァテマラ全土で採用し得る、効果的なオンコセルカ症媒介虫対策の確立。

なお、協力期間の前半では準備段階として媒介虫であるブユの生態研究、試験地域の設定、散布計画の立案作成、後半は薬剤散布の実施と効果測定に重点を置いて協力を実施し、1979年2月には、協力期間前半の終了に伴い、効果測定のためエバリュエーション調査団を派遣した。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
74	基礎	75. 3. 7～75. 3. 25						
75	実施	75. 6. 29～75. 7. 29				低速遠心機、ジープ	5,867	0
76	専門家チーム	76. 4. 5～76. 4. 14	0	7	2	高速冷却遠心機、ジープ	21,319	1
77	計画打合	77. 6. 23～77. 7. 10	3	4	9	広角眼底カメラ、顕微鏡	56,217	4
78	エバリュエーション	79. 2. 11～79. 2. 25	7	6	8	万能顕微鏡、レチナバン	28,399	1
79			10	5	6	脳波計一式、超低温冷凍庫	16,529	0
80	エバリュエーション	80. 5. 15～80. 5. 30	5	3	14	ダブルビーム分光光度計、 PHメータークラクションコレクター	16,360	1
81			2	6	8	ラミヤークローラノク、車輌	16,978	1
82	エバリュエーション	82. 5. 12～82. 5. 21	10	4	6	冷却遠心機、車輌	18,546	2
〃	視聴覚チーム	83. 2. 16～83. 3. 25						
83	機材修理	83. 4. 7～83. 4. 21	10	0	5	双眼顕微鏡、高圧滅菌機	9,915	1
〃	エバリュエーション	83. 7. 8～83. 7. 24						
計								

報告書	事前	実施	機材修理	エバリュエーション	第2次	第3次	第4次	エバリュエーション	エバリュエーション
			JR	JR	JR	JR	JR	JR	JR
			83-35	80-4	79-1	80-24	81-21	80-23	85-19

国　　名	グァテマラ	プロジェクト名	熱帯病研究
協力期間	1991. 10. 1～1996. 9. 30	国内協力機関	熊本大学医学部、長崎大学熱帯医学研究所、宮崎医科大学、産業医科大学
署名年月日	1991. 9. 4	相手国実施機関	厚生省マラリア局、サン・カルロス大学

協力概要

グァテマラでは、マラリアを始めとし、シャガス病、オンコセルカ症等の伝播昆虫媒介性疾病が社会・経済発展を阻害するものとして、同国の保健医療政策上で緊急に対処すべき課題に位置付けられているが、効果的な対策が取られていないのが現状である。我が国は同国に対しこれまでに熱帯病対策分野での技術協力を進めてきており、グァテマラ官民の高い評価を得ている。

これまでの我が国からの継続した協力を基に、同国政府は上記熱帯病の基盤的、包括的技術の獲得及びその成果を以て同国民の保健衛生分野の改善を図ることを目的として、我が国に対し熱帯病研究に関するプロジェクト方式技術協力を要請越した。

伝播昆虫媒介性疾病を中心とした熱帯病に関し、以下の4分野において基盤的、包括的研究技術の向上を図り、その成果を同国の保健衛生分野の改善に生かすことを目的とする。

(1) 病原体の同定と診断。
(2) 治療法研究及び臨床的研究。
(3) 伝搬昆虫の生物学と防圧研究。
(4) 疫学と人間生態学。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	事前調査	91. 3. 18～91. 3. 29						
91	実施協議	91. 8. 28～91. 9. 8	0	4	6	遺伝子診断ｼｽﾃﾑ、ELISAリーダー	30,000	3
92				7	13	ｽﾃｰｼｮﾝﾜｺﾞﾝ、プレハブ恒温室	40,000	4
93	計画打合	93. 4. 10～93. 4. 22		5	7	ｽﾃｰｼｮﾝﾜｺﾞﾝ、高速冷却遠心機	40,000	3
94	巡回指導	95. 1		3	11	PCRｼｽﾃﾑ／超遠心分離機	40,000	1
95			5	1	9	高速液体ｸﾛﾏﾄｸﾞﾗﾌ／疫学調査用車輌	30,000	3
96	終了時評価	96. 4. 15～96. 4. 28						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	事前	調査調査員	調査調査員
	CR (2)	JR	JR	JR		JR	JR	JR	JR
	89-38	91-40	93-23	95-03		96-09	91-26	90-20	90-35

国　　名	ホンデュラス	プロジェクト名	看護教育強化
協力期間	1990. 9. 1～1995. 8. 31	国内協力機関	厚生省・（財）国際看護交流協会・聖マリア病院
署名年月日	1990. 8. 16	相手国実施機関	厚生省・ホンデュラス国立自治大学
協力概要	同国は、国民、とりわけ農村地域の住民に対する保健衛生サービスの充実、及び乳児死亡率の低下を図ることを基本的保健政策として掲げている。しかし、農村地域では保健サービスの担い手である看護婦が絶対的に不足しており、また、その技術水準も低いところから、住民の保健ニーズに十分対応できないでいた。 係る背景から、同国は、厚生省管轄の准看護婦養成学校及び国立自治大学看護学部(正看護婦教育)を対象にしてプロジェクト方式技術協力を要請越した。 双方で合意された技術協力の目的は以下の5項目とし、これらの分野で5年間にわたり専門家派遣、研修員の受入れ、機材供与を行っていくこととした。 (1) 緊急に対応が必要な分野における看護教育の理論及び方法の改善 (2) 看護教育カリキュラムの改善 (3) 農村及び都市周辺部における実践教育技術の改善及び強化 (4) 看護教育技術の改善 (5) 看護教育用のテキストの開発及び改善		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
89	事前調査	89. 12. 5～89. 12. 18						
90	実施協議	90. 8. 9～90. 8. 19	0	4	0	人体模型、車輌	75,000	1
91			2	1	3	レコーディングレサシアン	67,115	3
〃						車輌、ネブライザー	40,000	
92	計画打合	93. 1. 11～93. 1. 23	5	3	3	顕微鏡、ワゴン車	80,000	4
93	巡回指導	94. 3. 23～94. 4. 2	5	1	5	ｼﾝﾒﾙﾌﾞｯｼｭ、酸素ボノクス	49,000	3
94	終了時評価	95. 3. 6～95. 3. 20	4	1	5	酸素吸入セット、コピー機	50,000	3
95						ｽﾄﾚｯﾁｬｰ、ﾈﾌﾞﾗｲｻﾞｰ	10,000	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR		JR		JR			
	89-56	90-38		94-40		95-25			

国　　名	ジャマイカ	プロジェクト名	公衆衛生
協力期間		国内協力機関	
署名年月日		相手国実施機関	
協力概要			
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
95	事前							
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	エバリュエーション	基礎		
							JR		
							95-12		

国　　名	メキシコ	プロジェクト名	人口活動促進 (Promotion for Population Activities)
協力期間	1984. 7. 4～1988. 9. 30	国内協力機関	文部省、厚生省、総務庁、日本大学人口研究所
署名年月日	1984. 7. 4	相手国実施機関	国家人口審議会事務局
協力概要	メキシコでは、1970年代前半に人口圧力は、国家的大問題となってきたため、1974年には、「国家人口法」を制定し、CONAPOを設置し、人口問題の解決に努めてきた。その結果、1980年の人口増加率は下降したものの、依然高率を示しており、更に経済情況は悪化しつつあるため、1982年に発足した新政権も人口計画を重視しており、CONAPOより、人口問題解決の一環として、人口活動の促進に対する協力を我が国に要請してきたものである。 CONAPOが実施している人口活動を促進するため、 (1) 人口予測（ベース・ライン・ダーターの整備、予測モデルの開発） (2) 人口教育のための基礎調査　(3) 統計手法の確立 (4) 人口活動評価のためのパイロット・スタディ (5) 人口教育実施 のための研修の各分野に協力する。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
82	事前	82. 11. 22～82. 12. 2						
83	第1次実施	83. 7. 10～83. 7. 18						
〃	協力計画	83. 11. 20～83. 12. 19						
84	第2次実施	84. 7. 1～84. 7. 12	0	1	11	コンピュータメイン装置 調査用車輌	34,000	2
〃	計画打合	85. 3. 6～85. 3. 20						
85	〃	86. 1. 27～86. 2. 7	1	3	6	調査用車輌／コンピュータ周辺装置	75,000	3
86	巡回指導	86. 11. 26～86. 12. 7	4	1	7	調査用車輌／コンピュータ周辺装置	53,000	3
87	計画打合	87. 10. 26～87. 11. 5	2	3	4	COEPO用AV機器／オーディオ機器	54,000	3
88	評価	88. 7. 25～88. 8. 8	5	0	2	コンピュータ消耗品/教育機器消耗品	20,000	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	エバリュエーション	派遣専門家	派遣専門家	
		JR	JR	JR		JR	JR	JR	
		84-46	85-17	87-05		88-60	88-19	88-18	

国　　名	メキシコ	プロジェクト名	家族計画・母子保健
協力期間	1992. 4. 1～1997. 3. 31	国内協力機関	母子愛育会・沖縄県立中部病院
署名年月日	1992. 1. 22	相手国実施機関	保健省

協力概要

メキシコ政府は人口の数量的問題及び国内の人口移動を是正調整することを一大目標とした「一般人口法」（1974年）を制定した。また「国家開発計画」（1989～94年）の中で家族計画の位置付けは非常に高く、具体的重点項目として①家族計画サービスの拡大（地方、スラム地区）、②家族計画教育の充実、③家族計画分野のIECの開発、が挙げられている。

以上のような背景から、メキシコ政府は、地域における家族計画・母子保健活動強化を目的とした人口家族計画プロジェクトの協力を我が国に要請してきた。

モデルエリア（ゲレロ州及びベラクルス州）内のパイロットエリア（コスタ・グランデ郡及びサンアンドレストゥクストゥラ郡）を中心とした、住民参加促進による母子保健・家族計画活動の改善と同活動を支援するリファラル（照会）システムの強化。具体的活動は以下のとおりである。

(1) パイロットエリア内の家族計画受容の増加のための母子保健サービスの改善
(2) モデルエリア内の地域医療従事者の研修
(3) 地域住民に対する家族計画・母子保健についての関連情報及び教育教材の普及

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
89	基礎調査	90. 1. 7～90. 1. 31						
90	事前調査	91. 4. 1～91. 4. 19						
91	実施協議	92. 1. 12～92. 1. 25				車輌、分娩台	30,000	
92	計画打合	93. 1	3	3	1	超音波診断装置／保育器	55,000	4
93	運営管理・実施設計	93. 11	2	2	8	ｲﾝｸｧﾝﾄｳｫｰﾏｰ／保育器	38,000	4
94	運営指導ﾁｰﾑ	95. 1	2	3	7	車輌、分娩監視装置	60,000	5
95	〃	95. 12	4	3	8	軽ﾄﾗｯｸ、移動式超音波診断機器	55,000	5
96	終了時評価	97. 1（予定）						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
			JR						
			93-08						

国　　名	パラグァイ	プロジェクト名	らい対策
協力期間	1970. 12. 27～1981. 3. 31	国内協力機関	大阪大学微生物病研究所
署名年月日		相手国実施機関	厚生省サプライ療養所
協力概要	本件は、南米の中でも、らい病の多発国であるパラグァイの要請に基づき、1970年度に大阪大学微生物病研究所の印南成司医師を同国厚生省直轄サプカイ療養所に派遣したことから始まった。 単発派遣よりプロジェクト化した本件は、日本・パラグァイ両国間の討議議事録に基づくプロジェクトではないが、実質的には専門家派遣、研修員受入れ、機材供与を有機的に結び付けたプロジェクト方式の協力である。 現在までに国立多摩研究所所長の難波教授による公開手術の実施、義肢技工専門家の派遣等により、らい病の治療、患者の社会復帰のための協力を行った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
70			－	1				
71			1	－				
72	基礎調査	73. 1. 21～73. 2. 21	1	－		ｲｵﾝ交換樹脂、純粋器	4,363	
73			1				293	
74			1			医薬品、心電計	15,723	
75	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	75. 10. 20～75. 11. 5	1	1		孵卵器ｵｰﾄｸﾚｰﾌﾞ	4,259	
76			1	－			991	
77			1	1		高速冷却遠心機、ﾛｰﾀﾘｰｴﾊﾞﾎﾟﾚｰﾀﾞ	21,600	7
78			1	－			56	
79			1	3		走査型顕微鏡、ﾃﾞﾝｼﾄﾒｰﾀｰ	20,776	
80			1	1				1
81								
82								
83								
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

国　　名	パラグァイ	プロジェクト名	厚生省中央研究所
協力期間	1980. 8. 18～1985. 8. 17	国内協力機関	
署名年月日	1980. 8. 18	相手国実施機関	パラグァイ厚生省
協力概要	パラグァイ政府は、同国厚生省中央研究所の機能強化に対する協力を我が国に要請してきた。我が国はこれを受けて、1979年基礎調査チーム（単発専門家）を派遣し、同国医療事情及び協力の可能性を調査した。その後、この調査結果を受けて1980年8月に実施協議チームを派遣し、討議議事録の署名をへて協力を開始した。 本件プロジェクトの具体的協力内容は、厚生省中央研究所の臨床検査部門を中心として、 (1) 臨床検査全般の技術向上 (2) 地方検査所からの検体運搬システムの確立 (3) 熱帯感染症に対する基盤研究 を行うものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
80	実施協議	80. 8. 9～80. 8. 24					315,500	1
81				3			24,072	2
82								4
〃	計画打合	82. 5. 24～82. 6. 4	3	3			64,436	
83			2	6			5,141	3
84	巡回指導	84. 9. 3～84. 9. 17	2	9			97,664	3
85	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	85. 4. 30～85. 5. 20	3	5				3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ		
		CR (5)		JR			JR		
		80-14		85-27			95-20		

国　　名	パラグァイ	プロジェクト名	シャガス病等寄生虫症研究
協力期間	1988. 3. 4～1993. 3. 3	国内協力機関	山形大学・日本大学・熊本大学他
署名年月日	1988. 3. 4	相手国実施機関	アスンシオン大学保健科学研究所
協力概要	シャガス病を中心とした寄生虫症疾患対策は、パラグァイ保健医療の最優先課題の1つである。パラグァイ側は本プロジェクト実施を通じシャガス病、リーシュマニア症等の寄生虫症の診断、予防技術の開発を目指している。 シャガス病、リーシュマニア症等寄生虫症疾患に対する基礎的応用的研究技術の水準を高めることによりパラグァイの保健衛生の向上を目指し、診断、予防技術の開発に寄与すべく①免疫学、②生化学、③寄生虫学、④病理学、⑤疫学、⑥分子生物学に係る研究技術の充実を図った。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
87	事前調査	87. 9. 22～87. 10. 9		0	3		0	0
〃	実施協議	88. 2. 28～88. 3. 15						
88			0	3	5	液体ﾝﾁﾚｰｼｮﾝｶｳﾝﾀｰ、高速冷却遠心機	67,454	3
89	計画打合	89. 8. 2～89. 8. 14	3	4	9	CO_2ｲﾝｷｭﾍﾞｰﾀｰ	46,892	4
90	巡回指導	90. 7. 28～90. 8. 10	3	5	13	複合電子走査型超音波診断装置	49,478	4
91			3	5	9	ﾏｲｸﾛﾋﾟﾍﾟｯﾄ、DNAﾎﾟﾘﾒﾗｰｾﾞ	28,512	3
92	評価	92. 10. 26～92. 11. 6		4	8	卓上型超遠心機／実験器具	20,000	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR	JR	JR		JR			
	89-13	89-13	89-42	90-42		92-32			

国　　名	パラグァイ	プロジェクト名	地域保健強化
協力期間	1994. 12. 1～1999. 11. 30	国内協力機関	山形大学、東京女子医大 山形県保健衛生部
署名年月日	1994. 11. 14	相手国実施機関	厚生省
協力概要	パラグァイ政府は地方中核病院を中心としたモデル地域のPHC体制を確立し、感染症疾患の対策を行うとともに同地域を基盤とし、国レベルまで組織化されたPHCシステムを構築すべく、我が国に対しプロジェクト方式技術協力を要請越した。 以下の成果を目的として、モデル地域においてPHCの推進を中心に地域医療のモデルとなり得る保健システムの強化と保健サービスの向上及び住民の健康状態の改善を図る。 (1) 全国レベルでのヘルスセクター・レビュー (2) モデル地区での参加型アクション・リサーチによる地域調査 (3) 健康教育プログラムの開発、実施、評価 (4) 保健医療従事者の育成 (5) 地域保健医療強化のための組織の確立		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
94	事前	94. 5. 21～94. 6. 4	0	2	0		21,000	2
〃	実施協議	94. 11. 7～94. 11. 17	2	3	4	オートバイ、車輌、顕微鏡	66,000	3
95	計画打合	96. 3. 18～96. 4. 1				臨床検査機材／麻酔装置	30,000	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR							
	94-38	94-62							

国　　名	ペルー	プロジェクト名	地域精神衛生向上
協力期間	1980. 5. 20～1985. 5. 19 （延長）1985. 5. 20～1987. 5. 19	国内協力機関	国立精神衛生研究所、慶応義塾大学医学部
署名年月日	1980. 5. 20	相手国実施機関	
協力概要	ペルー政府からのリマ市における急激な人口増加に伴う精神障害者のための社会復帰医療センターの無償資金協力要請に対し、1978年9月加藤正明国立精神衛生研究所所長を専門家として派遣し調査を行った。その結果、この問題は、地域保健分野の緊急かつ重要な課題であり、ペルー政府も最重視していることが判明したため、我が国は1979年7月に事前調査チームを派遣し、技術協力の可能性につき調査した。その後、1980年5月実施協議チームを派遣し、討議議事録の署名をへて協力を開始した。 本件プロジェクトの具体的な協力内容は、地域精神衛生センターの要員を対象として精神障害の早期診断・早期治療技術の向上及び疫学分野を中心とした協力を行うものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
79	事前調査	79. 7. 8～79. 7. 22						
80	実施協議	80. 5. 10～80. 5. 23	－	2			7,748	0
81	同上報告書作成							5
〃			2	1			1,645	
82								2
〃	計画打合	83. 3. 11～83. 3. 22	3	3			1,837	
83	同上報告書作成		3	4			21,509	3
84	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	85. 1. 29～85. 2. 12					54,421	3
85		86. 3. 15～86. 3. 28	2	3			54,002	2
86				8			6,247	2
87				4			36,105	
計								

	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ	疫学調査	派遣精神科疫学専門
報告書	JR	JR	JR				JR	CR (3)	JR
	80-6	81-18	83-30				90-59	83-27	83-25

国　　名	ペルー	プロジェクト名	家族計画・母子保健
協力期間	1989. 10. 6～1994. 10. 5	国内協力機関	国立公衆衛生院等
署名年月日	1989. 10. 6	相手国実施機関	保健省

協力概要

ペルーでは、母子保健サービス体制は十分確立されておらず、現在妊産婦の4分の1は何ら医療機関とのコンタクトを持っていない。また、医療機関の対応能力も実際のニーズに追いつかない現状にある。このため、同国における死亡原因の中で乳児死亡の占める割合が極めて高く、いまだに多産多死型のパターンを脱していないことから我が国の協力を要請越した。

(1) 協力目的

モデル地区（リマ市南部）における、母子保健サービス推進による乳幼児・妊産婦の保健衛生の向上及び家族計画の普及。

(2) 協力内容

モデル地区（リマ市南部）における

①母子保健・家族計画に係る地域活動への支援。

②母子保健サービス推進に携わるスタッフへの母子保健・家族計画分野での技術指導。

終了時評価

備　　考

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
88	基礎調査	89. 1. 8～89. 1. 30						
89	事前調査	89. 5. 28～89. 6. 10	0	1	0		95,000	2
〃	実施協議	89. 10. 1～89. 10. 11						
90			1	1	2	胎児心拍検出機、超音波診断装置	70,000	1
91			0	0	0	ｲﾝﾌｧﾝﾄｳｫｰﾏｰ、保育器	60,000	3
92			0	0	0	新生児インキュベーター、ドップラー胎児心拍検出装置	50,000	3
93			0	0	0	救急車、分娩台	43,000	4
94	評価	94. 10. 8～94. 10. 17				オートバイ、ドップラー胎児心拍検出器	30,000	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			
	JR	JR				JR			
	89-46	89-46				95-24			

国　　名	ウルグァイ	プロジェクト名	消化器病センター（Gastroenterology）
協力期間	1984. 4. 1～1989. 3. 31 （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ）1989. 4. 1～1990. 12. 31	国内協力機関	順天堂大学他
署名年月日	1984. 1. 12	相手国実施機関	共和国大学医学部付属病院
協力概要	ウルグァイの死因別死亡率においては消化器病疾患の率が著しく高く、当国唯一の大学である共和国大学医学部では付属病院に総合的消化器病センターの創設を計画している。 共和国大学医学部付属病院内に消化器内科（内視鏡学）を中心として、放射線医学、病理学、臨床検査等関連分野を統合した消化器病センターを設立し、消化器病診断のレベルアップを図るとともに、専門家の教育、養成を通じて全国的診療体制の改善に寄与することを目的に協力を実施した。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
83	事前調査	83. 7. 28～83. 8. 7						
〃	実施協議	84. 1. 6～84. 1. 16						
84			0	0	7		92,875	3
85			0	0	4		65,274	4
86	計画打合	86. 4. 20～86. 4. 26	0	0	4		0	4
87	巡回指導	87. 12. 6～87. 12. 15	0	0	2		45,343	3
88	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	88. 11. 5～88. 11. 12	0	1	8	超音波診断装置	36,265	2
89			1	12	13	内視鏡、ﾋﾞﾃﾞｵｼｽﾃﾑ	32,361	3
90			0	7	7	AVｼｽﾃﾑ、ｶﾞﾗｽﾊﾞｯﾄ	25,286	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ		
	JR	JR				JR	JR		
	84-17	84-17				89-05	89-19		

国　　名	ヴェネズエラ	プロジェクト名	がん対策 (Gastrointestinal Tract Cencer Control System)
協力期間	1982. 4. 1～1987. 3. 31 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1987. 4. 1～1988. 3. 31	国内協力機関	順天堂大学、癌研究会附属病院、仙台オープン病院、岐阜大学
署名年月日	1981. 2. 25	相手国実施機関	国立サンクリストバル中央病院
協力概要	ヴェネズエラにおいてがんは心臓病に次ぎ第2位の死因を占めており、がんの中では胃がんの割合が高い。ヴェネズエラ西部地域のタチラ州は全国第1位の胃がん発生率を有し、同州では国家計画に基づき胃がん対策プログラムを開始しているので同州にある国立サンクリストバル中央病院のスタッフに対し、放射線、内視鏡及び病理による診断技術並びに消化器腫瘍外科の治療技術につき協力を行った。 (1) 胃がんの一次スクリーニング（間接X線フィルムの読影技術、X線技師の養成） (2) 胃がんの一次スクリーニング（内視鏡診断、X線技師の養成、集団検診情報システムの確立等）		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
81	事前調査	81. 10. 1～81. 10. 11						
〃	実施協議	82. 2. 21～82. 3. 2						
82	同上報告書作成			5			62,879	3
83				6			58,551	3
84	計画打合	84. 7. 8～84. 7. 17	1	11			39,986	4
85	巡回指導	85. 8. 4～85. 8. 15	1	9			14,782	3
86	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	86. 9. 2～86. 9. 25		11				2
87				4			13,095	1
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ		
	JR	JR	JR	JR			JR		
	81-01	82-25	85-18	86-32			91-36		

国　　名	ソロモン諸島	プロジェクト名	プライマリ・ヘルスケア推進
協力期間	1991. 9. 1～1996. 8. 31	国内協力機関	厚生省、文部省
署名年月日	1991. 4. 11	相手国実施機関	保健省、自治省

協力概要

要請の背景

ソロモン諸島においては、感染症を中心とした各種疾患により、多くの国民の健康が損なわれている。

同国政府は、これに対する対策に取り組んでいるが、人材及び資金が著しく不足していること、また、多数の島々により構成された国家であることなどから、保健医療水準を大きく向上させ得ない状況にある。このような背景から、同国政府は、1989年我が国に対し、公衆衛生分野の開発を目的として、プロジェクト方式による技術協力を要請越した。

目的・内容

プライマリ・ヘルスケアのアプローチにより①ヘルスシステムの強化、②人的資源の強化、③健康教育を通じて、コミュニティーレベルでの国民の健康増進を図る。

具体的には感染症のうち、マラリア、結核、B型肝炎を取り上げる。

終了時評価

備　　考

協力実績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
90	事前調査	90. 4. 4～90. 4. 17						
〃	実施協議	91. 4. 6～91. 4. 17						
〃	長期	90. 7	0	6				2
91	実施協議	91. 4				ﾍﾓｸﾞﾛﾋﾞﾝﾒｰﾀｰ、車輌	38,000	
92			2	0	7		50,000	2
93	第1回巡回指導	93. 10. 22～93. 11. 1	6	6	8	車輌、印刷用機材	50,000	2
94	第2回巡回指導	94. 10. 16～94. 10. 28	4	3	8	車輌、ガスクロマトグラフ	38,000	3
95			5	1	7	車輌、顕微鏡	30,000	2
96	終了時評価	96. 4						
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	巡回指導		
	JR	JR		JR			JR		
	90-41	91-15		94-41			94-05		

国　　名	トンガ	プロジェクト名	保健衛生検査所
協力期間	1978. 12. 15～1986. 12. 14	国内協力機関	
署名年月日	1981. 12. 15	相手国実施機関	トンガ王国保健省
協力概要	WHOはPHC部門における途上国援助に関し、従来より先進諸国との協力を呼びかけて来ており、我が国に対しても種々のアプローチがあった。これに対し我が国は、1981年3月に日本、WHO合同プロジェクトファインディング調査団をフィジー、トンガ、ソロモンの3カ国に派遣し調査した結果、トンガの中央保健衛生検査所拡充案件が日本／WHO合同技術協力プロジェクトとして最も実現の可能性のあることが判明し、日本／WHO合同事前調査団が1981年8月にトンガに派遣された。その後、1981年12月に実施協議チームを派遣し、日本・トンガ間でR/Dの署名を行うとともに、日本・WHO間で覚書に署名が行われ、本件合同協力が開始された。 本件プロジェクトはトンガの疫病対策、環境衛生対策に寄与するため、同国の中央保健衛生検査機能の強化拡充を行うというものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　（単位：人又は千円）

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
81	事前調査	81. 8. 14～81. 8. 29	0	0	5			0
〃	実施協議	81. 12. 7～81. 12. 18						
〃	実施設計	82. 3. 29～82. 4. 7						
82	同上報告書作成		0	2	2		26,377	1
83	計画打合	83. 6. 13～83. 6. 26	2	0	11		43,508	3
84	機材修理	85. 2. 5～85. 2. 16	2	1	2		34,430	3
〃	巡回指導	84. 9. 9～84. 9. 18						
85			2	0	1		1,969	2
86	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	86. 10. 14～86. 10. 25	2	0	4		41,116	3
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	ｱﾌﾀｰｹｱ	ｱﾌﾀｰｹｱII	
	CR (2)	JR	JR	JR	JR	JR	JR	JR	
	81-32	82-06	83-38	84-44	85-25	87-36	90-34	94-13	

国　　名	ユーゴースラヴィア	プロジェクト名	PHC生涯教育 (Continuing Education for Primary Health Care)
協力期間	1984. 11. 26～1989. 11. 25 (ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ) 1989. 11. 26～1990. 11. 25	国内協力機関	
署名年月日	1984. 11. 26	相手国実施機関	保健機構経済研究所
協力概要	ユーゴスラヴィア保健医療行政においてはPHCの充実が重点目標とされ、その達成のためPHC従事者の生涯教育に力をいれてきたが、必ずしも所期の成果を上げるに至っていない。 本プロジェクトはPHCのための生涯教育に新しいメディア（視聴覚教材、コンピューター）を導入することにより従来の教育方法の欠点を克服することを狙いとし、そのためのモデル・システムをクロアチア共和国内に確立せんとするものである。		
終了時評価			
備　　考			

協　力　実　績　(単位：人又は千円)

年度	調査団		専門家			機材供与		研修員受入
	種別	派遣期間	長期		短期	主要機材名	金額	
			継続	新規				
82	事前調査	82. 7. 3～82. 7. 17						
83				5				
84	実施協議	84. 11. 15～84. 11. 29		3				2
85				6			107,500	3
86	計画打合	86. 5. 14～86. 5. 25		10			34,925	3
87	巡回指導	87. 5. 2～87. 5. 17		0			56,021	2
88				3			45,854	3
89	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ	89. 11. 18～89. 11. 29	0	3	3		1,106	0
90			0	2	2	AV機器	25,853	
計								

報告書	事前	実施	計画打合	巡回指導	機材修理	ｴﾊﾞﾘｭｴｰｼｮﾝ			

JICA